

官係官ニ配布シ代供見

情第一五〇四號

昭和十八年九月八日

臺灣總督官房情報課長 森田民



內務省管理局長殿

配布先 管理局長、監視部長、事務官

「新建設」送付ノ件

皇民奉公會發行ニ係ル「新建設」九月號五部迄御參考
右及送付候也



號九第卷二第・行發日一四一月每・行發日一月九年八十和昭・可認物便郵種三第日五十月十年七十和昭

新建設



必勝食糧増産常會

九

15
+

會公奉民皇

REEL No. A-0510



アジア歴史資料センター

敵に襲へて

桔梗俱樂部員入營



ソロモン群島に於ける敵米の熟穂、なる反撃は全くある。又在支米空軍は虎視眈々と日本空襲の機をうかがつてゐる。わがれに機捕の備へありと云へど、刻の油断も許さない。この秋北極探偵隊の若き女性たちは敢然と旅起。去る七月二十四日より三日間、蘇聯第五部隊に入營、防空並びに軍事教練を受得、心身の鍛錬をはかると共に、二朝有事の際に備へて女性もまた銃を執るとの固き決意を注のめかした。今、防護面をつけて駆走、下射撃の練習。



必ず勝つ、勝てる

日米戦争論の先鞭である池崎忠孝代議士は、臺灣の各都市で「大東亞戦争には必ず勝つ」と明快に論断して喝采を浴びた。だが、あの講演を聴いた聴衆の全部が全部まですべて、本當に心の底から必勝の信念を固め得たであらうか。

池崎氏の數ある日米戦争論の中には、案外よく言ひ當てゐるものが多いけれど、大東亞戦争の様な大規模な複雑した戦争を末の末まで見透して言つたのかどうか、一般に對する氣休めではないか……などと、一應は疑ひ

の心を挿まぬと承知しない知識人など多少あるのではないかと。さういふ時には、思ひ切つて掘下けて徹底的に思案してみることだ。例へば假りに日本が敗けたとして、その時に我國は如何になり、我々國民はどうなるかを真剣に突きつめて考へてみるがよい。そして、一九一八年秋、第一次歐洲大戦争において、ドイツが戦争に勝ちながら遂にコンピエーヌの森で聯合國の前に膝を屈して屈辱條約に調印したこと竝にその後の

ドイツ國民の悲愴極まる鐵鎗の下の背烈な運命などを併せ考へてみるが宜い。

さうすれば、多少ある疑惑も一瞬にして雲散霧消し、其の結論は「何としても敗けられない」といふことに必ず歸一する。殊に況んや建國二千六百餘年、金匱無缺、世界無比の國體の下、無敵の陸海空軍に護られてゐる我國である。その上億國民は、現に汗と膏とで必勝不敗の態勢をそれぞれ克明に作り上げつゝあるのだ。

必勝不敗の信念は茲まで掘下けて考へることに依り、磐石に培はれるのである。

新建設 目次 (九月號)

巻頭語(必ず勝つ、勝てる)……………一

一 必勝食糧増産……………二

二 常會……………三

三 現地進しき農民魂……………四

四 巷の經濟學……………五

五 時局足並の描はぬ反樞軸軍……………六

六 犬と音楽と食欲の語見……………七

七 戦ふ女性……………八

八 大溪の演劇挺身隊……………九

九 生活簡素化について……………一〇

一〇 桔梗俱樂部三日入營……………一一

一一 潭底一の働き者……………一二

一二 悔悟の人に遇い心……………一三

一三 一位編遣軍の歌……………一四

一四 勇取青年の門の……………一五

一五 新建設四層板……………一六

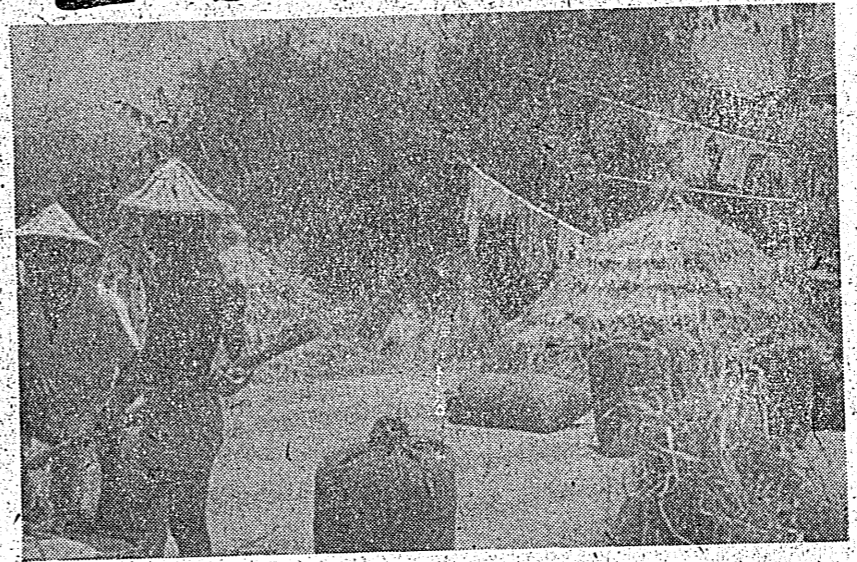
一六 詩無……………一七

一七 女性の勤勞勳員……………一八

一八 表紙……………一九

一九 宮田 晴光……………二〇

必勝食糧増産



【記者】 本日はお忙しいところを有難うございました。かねて申上げて置きました様に、戦時食糧の増産に就て實地の御體験談を承りたいと存じます。いよいよ激烈となる決戦の現段階に即應して、食糧の増産もまた全力をあげてこれに集注されてをりますが、特に九月にはこの食糧増産運動が展開されることになりました。奉公會と致しまして、全力を挙げてこれが推進に乗り出すことになつてをります。

本日は食糧増産の總元緒たる殖産局農務課はじめ、全島農家の代表として、各州下より篤農家あるひは農村の中堅青年の方々に御出席願つたのでありますが、當局と農家との打ちくつろいだ増産常會と云ふ様なお氣持で話をすゝめていただきますと存じます。

農家の方々は決戦下に於ける農民精神の振起昂揚ぶり、あるひは増産勇猛心により工夫と創意を働かし、如何に増産に成績をあげてゐるか、米作りの御體験をお話し願ふと共に、技術的な點につきましても色々御苦心のあることと思はれますので、丁度二期作の田植も終つたばかりでありますし、その實狀並びに田植のすんだこれから後の問題にもふれて、實狀を怠憚なく上通していただき、それについて御當局の方々より色々お教へ願へれば、單にこの席だけの問題ではなく、全島の農家の人々にも誌上を通じて呼びかけ、大いに増産魂の昂揚をはかりたいと存じます。

尙座談會を進めます上から、この會を催すに當りまして、色々御配慮頂きまして、色々御配慮頂きまして、松野さんは、總督府殖産局の農務課長であらせられると共に、奉公會の参事でもありますので、本日は官服を脱いでいただき、参事

常会



として司會の勞をとつていただきますと存じます。

〔松野氏〕 最初司會者として此處にお出になられる事になつて居りました。大澤宣傳部長が、突然巴むを得ぬ御用のために缺席されることになりましたので、皇民奉公會の参事を勤めまして頂いて居ります関係で、私に代はつてやれとお話であります。かう云ふ司會は甚だ不慣れでありますけれども、進行係を勤めまして頂き度いと思ひます。

只今、お話がありました通り、この座談會は食糧増産を振奮して居る官廳側、それから實際食糧増産の任に當つて居られる皆様との水入らずの會でありますから、常會と云ふやうな氣持で、さうして何の遠慮もなくお話し合ひを願ひ度いと思ひます。

私は進行係を勤めますけれども、かう云ふことを一つ此の官廳側にお尋ねして見度いと思ふことがありましたならば遠慮なく尋ねてください。又こちらの方も遠慮なく突込んでお聞きする事があるかも知れません。先づ皮切りに私は官服を脱いで司會をやりますけれども、その前に先づ一つ農務課長と云ふ立場でお話してそれから、お話し合ひを願つて行き度いと思つて居ります。皆御承知の事と思ひますが、中央の政策に呼應致しますので、先般、米の増産を計らなければいかんと思つて居るのので、米の値上げをするのと共に國庫から膨大な生産奨励金を出す事になつたのであります。之が發端

亦でも数千萬圓にも上つて居ります。それから又皆様の所に少ない乍らもお配りして居ります肥料も、皆様が拂つて居られる肥料代は實は高くてあります。總督府から毎年數百萬圓の補助金を出して、肥料代を上けない様にして居るのであります。此の外食糧増産の爲には直接間接約年六百萬圓程度の金を注ぎ込んで居るのであります。之は總督府文であります。

時 八月十一日(金)午後三時
所 皇民奉公會中央本部會議室
司會 皇民奉公會参事 松野 孝一氏
(殖産局農務課長) 磯 永吉氏
府農事試験所技師 鈴木進一郎氏
(臺) 大 磯 櫻 源氏
殖産局農務課技師 犬飼 圓碩氏
臺北州農民訓練所 林 錦 源氏
第七回生(臺北) 吳 氏 昭 桃氏
第十一回生(北投) 楊 金 崇氏
新竹州桃園街篤農家 楊 金 崇氏
臺中州南投郡 芳 澤 煉平氏
草 屯 街 主 郎 芳 澤 煉平氏
臺南州北門郡篤農家 黃 振 聲氏
高雄州湖内庄篤農家 吉 村 里美氏
高雄州萬里庄篤農家 廣 田 光枝氏
高雄州新埤庄増産助役 鍾 啓 蒸氏
督府文である 本誌 池 田 敏雄



氏一孝野松



氏吉永磯



氏一進木鈴



氏一圓銅犬



氏一振實



氏一錦林

の如く官廳としては必要な施設を講じて食糧増産に努力して居るのであります。幸ひに農村の先覚者たる皆様、その他農民一般乃至は全島民挙げて、此の食糧増産の重要性をよく認識して下さいまして、先般私は局長にお伴致し、第二期作の植付督励に中南部を廻つて参りましたが、各地共非常に熱心によつて居られまして、局長初め一行は非常に感激して歸つたのであります。何と云つても、

如何に役所側が只今申しました様な各般の努力を致し、農村の實際の衝に當つて居られる皆様達が本當に増産の熱に燃えてやつて行かれると云ふ事と、凡ゆる創意と工夫を凝らし、例へば肥料が無くても決して肥料が無いからと云ふ様なことは言はず、自給肥料で之を補つて行くこと云ふ氣持が大切でありまして、やり抜くこと云ふ決意がなければ、成績が上らなると云ふ風に考へるのであります。

今度こそ司會者の立場に代りまして、一つさう云ふ様な意味で、此の座談會が農村を啓蒙し得る様に皆様の御體験から御意見を聞かして頂き度いのであります。最近食糧増産の熱が全島を覆つて居る。此の際に、新しい思ひ付きと致しまして、街庄に増産専門の名譽助役を設置して、増産督励に専任させよう云ふ様な企てが方々に現はれて來た様であります。私は之は非常に思つて居るのであります。常時時局柄結構な企てであると思つて居るのであります。所謂増産助役と云つて居るものであります。此の増産助役に選任される様子を、人から、一つその新増産の管内に於て何を特に一生懸命やらうと云ふ風に思つて居られるか、或はさう云ふ

様な使命を有つた助役に選任された心構へとか云ふ事に就いて御披露願ひ度いと思ひますが……

本島初の増産助役、その反響は？

〔鍾登英氏〕考へて居ることを率直に申しあげて見ますと、農民が何を一番要求して居るか云ふと、肥料の配給や努力の不足は多少は言つて居る様に聞いて居りますが、何と云つても畜力の不足であります。特に南部高嶺州に於きましては、田植の時期と云ふのが非常に重要視されて居り、その時期を失すれば、増産

に非常に影響を蒙るのであります。私は増産助役として、先づかう云ふ點の緩和をはかる様に努力したいと思ひます。又増産の技術指導が農民に徹底して居ない様に見受けられます。その一策と致しましては第一に何と云つても農事實行組合の強化充實が最も必要では無いかと存じて居ります。殊に現在農事實行組合の狀態を見ますと、實行組合の職員は農事方面には全然無經驗のものでありまして、又部落會の書記などは或は配給とか、その他の事務が多くて、つまり田園の農民と手を組んで直接農民を指導する暇が少しもないのであります。殊に農民は保守



氏平煥遠芳



氏一登鐘



氏一樹金楊



んさ桃昭氏吳



んさ美里村吉



んさ枝光田廣

的でありまして、他人の道り方が良ければ自分もやつて見よう云ふ氣持が強く、唯單に斯ういふ道り方がよいからやれと勤めても農民は非常に失敗を怖がつて居ります。それは無理も無い事として、一度でも失敗すれば、家庭經濟が非常に苦難に陥る事は萬々承知して居りますが、そのため他人の結果を見て自分もやつて見るのであります。従つて農事實行組合に専任の指導員を置いて、その指導

員に模範田を經營して貰ひたい。その管内の實行組合で数人を指名選定致しまして、増産の模範田を經營せしめて一般の模範とし、さうして全農民を引つて行く様にしたらと考へてをります。もう一つ之は最近考へた案ですが、此の間私の方で郡守さんの臨場を得まして、各農家と實行組合長とが懇談致しました結果、今迄私の方の苗代經營は、大抵一回乃至二回、多くて三回に於て之を播種したのであります。之は早苗と晩苗との差が非常に大きくなつたので、第二期作からは各實行組合に於きましては、徹底的に農事實行組合に於て苗代を經營し

且つ共同田植を行ふことに致しまして、はじめから計畫的に若苗を植得るやうに、最初に播種した苗は、最初に植るやうに共同で取つて、共同で田植をなす様にして行き度いと思ひます。若しも實行組合で根本的に之が出来れば苗代管理も非常に良くなり、我々の企圖する遊蕩も絕對保持出来るのでは無いかと考へてをります。

〔記者〕高嶺には増産助役は、今のところ何人ですか。

〔鍾氏〕六人です。

〔記者〕農民側の聲はどうですか……

〔鍾氏〕州下全般の事は判りませんが、特に私の方の潮州郡の関係になります

と竹田、萬等各庄全部が要望して、私の方にも是非置いて呉れと、郡守や勸業課長に言つて來て居ると云ふ事を知り居りますが、實際的にその助役が田圃を經營し、當局の指導要綱に依り増産に邁進して居る人ならば、之は一般農民の指標としては適任であると思ひ考へて居ります。特に私は任命されてから、まだ十日位しかたがいませんが、兎に角方々歩き廻つて、特に婦人層の田圃を督励などに、自分も一緒にやつて田圃を洗つて、苗取りの缺點を教へたので、詰り苗は一株々取つて根元の土を洗ひ落すのが、良いので、大抵はその儘植えて終

せうか、或は除草器でやつた方がよいでせうか、私共が昨年の六月頃に内地視察に行き、田植の状況や又女性の働き振りを見て参りましたが、歸りましてから田植挺身隊を結成して、自分が率先垂範して田植に参りました。女子青年隊や隣り近所の方々にも除草の仕方を教へてやりました。なかく、覚えて呉れないのでして、其女は農會のお金を貰つて視察に行つたんだらう。なんか言はれて、一人丈で、多勢の人を教へる事は非常に困難でやりにくい事だつて、感じました。

〔磯氏〕 除草器でやらないで、どうして一番良いのは手で取る事ですか。

〔廣田氏〕 私の方では現在第一回は手で取る、第二回は除草器を使ひます。第三回は手で取ります。三回しかやつて居りませんが、

三回目は時が押さか、雑草抜きなんかやります。……

〔松野氏〕 世間の人が何と言つても何處迄もやり過ぎなければいけません。

〔吉村氏〕 やらうと思へば何でもやれますよ。

〔松野氏〕 そう、そんなんです。その氣持が大切です。

〔廣田氏〕 田植挺身隊は率先垂範してやりましたが、此の九州知事閣下が萬福庄に來られて、萬福庄の田植をどうだつたか、とお尋ねがありました。今播種して何日位で、かう云ふ具合にやりました。と説明したのですが、その時挺身隊長の腕章を役場の職員の方にもつけていたかどうかとしましたが、どうして着けないので、どうしてかと聞きました。内地視察に行つてないから本當の田植は出来ないので、だから知事さんに質問されたら困る、と

農業指導員は口説くより田に入れ

言ふのでした。それから私知事さんに、女だつて働けば何でもやれる。やらうと思へばどんな事だつて出来ると言ひましたのよ。

〔松野氏〕 今一番必要なのは、その氣持なんです。何時迄もそれを保持して下さいよ。

〔吳氏〕 之迄は私も餘りやつてませんが、之からはうんとやつて見せよう。

〔廣田氏〕 女子青年隊の手で稲刈挺身隊が結成されて、昨年團員が全部出席して、一甲歩三十回でやりました。脱穀機は向うが出します。それから今期の田植挺身隊ですが、全員出席して、之は一甲歩二十回で引受けました。

〔松野氏〕 女子青年隊の苗取りと田植を女子青年隊で引受けまして、苗運搬は申込者にお願ひしました。さうしたら皆喜んで、とんと申込んで來ました。

〔鐘氏〕 實際やつて見て、それが必要だと感じます。例へば五甲歩の指導が實地に出来るものとすれば、新埤庄支でも五百甲歩あります。

〔吉村氏〕 居りますよ。〔記者〕 外の州はどうですか、登南は……

〔廣田氏〕 なかく、期待する様な人材は得られませんが……

せんね。

〔鐘氏〕 その點は同感です。

〔鈴木氏〕 自分の村から出て、自分の農業をやると又外の人の世話をすると云ふのが理想ではありませんかね。

〔鐘氏〕 理想は理想かも知れませんが、幾分なりとも同じ村の者になりますと内輪の者だからと云ふ氣持を生じて、却つて指導上農民がその指導員の言葉を聞き取つて呉れない恐れがあります。

〔鈴木氏〕 矢張り外の地域から入つて來るのがよいですかね。指導員は大概が被給者であり、氣の毒な所もありますが、ぐるぐる廻つて居ると指導者の技術も變はり、指導される者も新しい技術を受けると云ふ事もありますね。

〔鈴木氏〕 内地では相當に資力や資格のある人が、

かう云ふ情勢になりますと自分の村のために棒給を積むに努力して呉れる人があります。こちらでもさう云ふ人を要望して居るんですかね。

〔鐘氏〕 指導員には机上の事務を執らせない様に強く要望したいですね。農民と共に語り、汗を流して貰ひ度いのです。庄役場とか郡役所等で徹底的に教育しなければね。

〔吉村氏〕 幾ら出て行つて指導しても百姓は仲々聞いて呉れませんね。

〔鐘氏〕 農事實行組合の技術員は所謂言行一致で、指導員自身が五甲歩なり十甲歩なりやつて見て一般を指導すると云ふ事が必要で、たゞ口先では農民を引つて行く事は出来ません、結局言行一致ですね。

〔鈴木氏〕 さう云ふ人は部落から出さなければならぬ。然るに部落の人では

仲々他の人が言ふ事を聞かんと云ふ事、そこに六つかしい所がありますね。

〔芳澤氏〕 指導員が事務の方も執り、しまひにはだんだん、それが専門になつて來るやうでは無意味です。

〔鐘氏〕 高雄州は各農會に指導員を置いて居りましたが、事務のみ執るやうになりまして、田圃には行きません。本當に農民と語つて、農民の苦しさの味はつてこそ、本當の指導が出来ると思ひますが……

〔松野氏〕 矢張り事務もありませんね。

〔鈴木氏〕 先刻も申しあげました様に、事務員と指導員を以つてやつていただき、もう一人は實行組合の經費でやつて貰ふ様にするといふんですが……

〔松野氏〕 事務の者も置き、且つ指導員も置くと云ふ様にしなければ徹底しませんね。

それから登南の黄振啓さん、貴下の方は私の聞いて居る所に依りますと、共同作業を非常に良くやつて居られる様ですが、之は各地共最近なかくよくやつて呉れて居るんですが、あなたの部落の状況を一つ……

この十甲歩から秋の終りが、どの程度まで遅られるか、世間でも注意し、期待して居る。尙察得のこの非農協の報章が内地に傳はつた爲めでもなからうが、伊豆で有名な川原のゴルフ場も、今度、よく耕地にすることに、確か八月四日から「富士見」の方も「大島」の方も皆打球場は食糧増産のために、耕地に姿を變へた筈であるが、ゴルフ場を耕地にするに、先手は、資力が僅かのこと、で真先に打つたことになるやうだ。

放追フルゴ

淡水打球場を
開墾 全国に響けて

お百姓でない非農家の人々までが、堆肥の増産や未開地の開墾、或は田圃收獲などに協力する姿は、まことにいいものである。その一例として東北で話題にのぼつたのは淡水のゴルフ場を造つて甘藷や野菜を植えるといふ計畫で、しかも此の開墾をゴルフをやる東北の上層人が自ら銀をとつて進めたといふところに特色がある。

即ち七月二十五日の日曜日に會長加藤泰平氏(新指針)を初めお歴々六十餘名が大勢して、淡水ゴルフ場の約四分の一に當る十甲歩の地質のよい處だけを開墾するため、銀入式を行つた。この日は淡水郡守や淡水中學校及び女學校、男青年團員等二百餘名も参加、神官の祝ひ清め、式後に會長の銀入れあり、次いで打球會員のいめい手に、銀をもつて妙な恰好をしながら、汗を大地に落しつゝ増産への努力を揮つた。

成果を擧げた 北門郡下の共 同作業

〔黄氏〕、私の方の水稲作は、臺南州は嘉南大圳灌溉區域になつて居ります関係上三年輪作制を採つて居ります。それで相當他の雑作區の農作物の收穫作業とか、甘蔗の植付と云ふものが一度に水稲植付作業とぶつちかつて居りまして農繁期になりまして努力の不足を生じて來るのではありません。陸稻の除草もしなければなりません。養蚕の收穫もしなければなりません。又甘蔗の手入作業もやらなければならぬのであります。それに嘉南大圳は水路の關係は水利の關係で、水の灌漑と云ふものは他州の様に豊富なものではありません。各水區に於て一箇月の植付数量の量しか出して呉

れません。例へば十甲歩の水稲作には一箇月幾ら、甘蔗には幾らと云ふ様に、さうした計畫の下に水を送つて呉れるので、どうして水節約して、この植付期間を短縮しなければならぬ。そのためにはどうして各自各自の行動をとると、此の嘉南大圳の植付統制に順應する事が出来ません。さう云ふ建前から、此の嘉南大圳組合を本體とする組合員共同作業體を組織しなければなりません。それに順應して一日の植付計畫甲数を計上して、上から水へ順順に植付けて行くためには、共同作業でなければ、此の水の關係がうまく行かないので、共同作業を計畫したのであります。整地も共同作業でやらなければ嘉南大圳の水利計畫と合致しないと云ふ事からして、私は嘉南大圳の實行組合長も兼ねて居ります関係上、昭和十

を備つて來るのであります。之は農家經濟からしても、凡ゆる方面からしてもいけない事でありまして、私の方の部落では女を田植に廻して男は整地作業に廻しました。子供は十四、五歳の男の子でも良いからと云ふので田植を作業に廻しました。然し之は最初の事であり、今迄全然田植をさせた事はありませんので、實地指導しても仲々うまく行きません。幾ら指導しても、うまく出来ません。之は何とかしなければならぬと云ふので考へ出しました。案は、現在實行して居ります木造正條村と云ふものを作つたのであります。之は三人一組で一人が六株、三人で十八株の木造正條村を考案して田植をさせました所が、曲りなりにも正條密植に順應したものが出来まして、此の間に四、五年訓練を致して居りましたが、丁度昭和十六年度になりま

しません。例へば十甲歩の米作田には一箇月幾ら、甘蔗には幾らと云ふ様に、さうした計畫の下に水を送つて呉れるので、どうして水節約して、この植付期間を短縮しなければならぬ。そのためにはどうして各自各自の行動をとると、此の嘉南大圳の植付統制に順應する事が出来ません。さう云ふ建前から、此の嘉南大圳組合を本體とする組合員共同作業體を組織しなければなりません。それに順應して一日の植付計畫甲数を計上して、上から水へ順順に植付けて行くためには、共同作業でなければ、此の水の關係がうまく行かないので、共同作業を計畫したのであります。整地も共同作業でやらなければ嘉南大圳の水利計畫と合致しないと云ふ事からして、私は嘉南大圳の實行組合長も兼ねて居ります関係上、昭和十

六年北門郡下に共同作業と云ふ事が呼ばれて以來之を實施する事になりました。その経過は今迄私の方の實行組合區域が二番郡下ではよくやつて居ると云ふ郡守のお褒めの言葉に與りました。之はどう云ふ關係からさう云ふ事になるかと云ふと、私の方は過去の経験、實績を基礎にして計畫を樹て、やりましたが、又それを見て他の部落が實施すると云ふ様になつたからだと云ふ事から、私の方の戸数は約二十戸で耕作面積は約七十餘甲歩でありましたが、それで以て農家戸数は十八戸人口はと言ひますと、男女、子供、年寄り併せて五、六十名しかないので、七八十甲の耕作をする事は、結局努力不足が起つて來ます。それで今迄の努力はどうして賄つて居つたかと云ひますと、他の郡から殊に田植司(田植の職人)

ますね。皆喜んだでせうね。助かつて...
〔黄氏〕、一甲歩位耕作して居る農家になりますと植付のために、特別に經費を出さなくても、いすから
〔松野氏〕、農家は非常に喜んで居りますか。
〔黄氏〕、非常に喜んで居ります。共同班に三人さへ出せば一甲三分位耕作してゐるものは、別に田植賃を出さなくても、いすからね。又班食も出さなくてすむのです。
〔鈴木氏〕、共同田植を一甲やる場合と、従來の司早にやつて居られる女子青年にやつて居られる人数やそれから經費の點の比較を簡単に一寸話して呉れませんか、凡その所でよろしいか...
〔黄氏〕、今迄他郡から傭つて來た者は一甲當り十人か、取りと、苗取りと、苗

司早依存を一 蹴、田植も收 穫も共同作業

も日に四回一人に就いてかゝるので。
〔松野氏〕、共同でやる場合でも苗取り苗運搬は耕作者の女子がやります。そして苗運搬、苗取りは普通植付の八割の努力がかゝりますので、女は一人九十錢で八人がゝるとして七回二十錢、それに司早一人四回として十人で四十回になりま

それでどうも獎勵、指導に支障を來して居ります。さう云ふ附屬物の取替へに何とか便利を與へて頂ければ...

〔松野氏〕 我々もその點は資材の配給が少ないため非常に苦勞して居ります。今度は既に御承知の通り企業院總裁も農器具に就きましては重點的に配給するとして...

〔芳澤氏〕 鐵は鐵治屋で修理さす、直ぐ修理して呉れますが、深耕は鐵治屋でも大工でも附屬品が無いと云つて修理して呉れませ...

〔松野氏〕 鐵治屋の修繕賃が安いので修繕して呉れないと云ふ事を聞いて居りますが、さう云ふ事はありませんか。

〔芳澤氏〕 聞いて居りません。鐵治屋が好い機會だと許りにボルトと云ふ様な事は...

〔松野氏〕 鐵治屋の修繕賃が安いので修繕して呉れないと云ふ事を聞いて居りますが、さう云ふ事はありませんか。

〔松野氏〕 鐵治屋の修繕賃が安いので修繕して呉れないと云ふ事を聞いて居りますが、さう云ふ事はありませんか。

〔芳澤氏〕 鐵治屋が好い機會だと許りにボルトと云ふ様な事は...

〔松野氏〕 鐵治屋の修繕賃が安いので修繕して呉れないと云ふ事を聞いて居りますが、さう云ふ事はありませんか。

〔芳澤氏〕 鐵治屋が好い機會だと許りにボルトと云ふ様な事は...

〔松野氏〕 鐵治屋の修繕賃が安いので修繕して呉れないと云ふ事を聞いて居りますが、さう云ふ事はありませんか。

〔芳澤氏〕 鐵治屋が好い機會だと許りにボルトと云ふ様な事は...

地主も増産戦士の一人として

〔松野氏〕 芳澤さん今我の考へてをります大きな問題は、百姓は一生懸命やつて居りますが、地主も増産戦線の一人として協力することが大事であります。

〔芳澤氏〕 全くその通りです。結局は地主の協力と云ふ事が何よりも必要です。

〔松野氏〕 うまく出来ませんか。

〔芳澤氏〕 出来ません。それには、現在の地主の實情から申しますと云ふと、尤も私は別に多くの田地を持つて居るわけではなく、地...

主階級には入らないと思つて居りますが、今迄の地主の大多数が、殆んど土地を貸し放しにして、收穫時になれば租穀さへ取れば良いと考へて居りました。今期の收穫は良いか悪いかと云ふ様な事は殆んど無關心で來ました。謂はゞ土中の八、九迄はさうでありませ...

〔松野氏〕 餘りやつて居りませぬ。〔芳澤氏〕 それをやらせる方法はどんなものでせうか。

〔松野氏〕 私の考へとしては此の際地主がもう少し時局を認識するやうに、一層自覺を喚起して頂き、或は郡單位なり街庄單位に地主會を組織してもよろしい

〔松野氏〕 鐵治屋の修繕賃が安いので修繕して呉れないと云ふ事を聞いて居りますが、さう云ふ事はありませんか。

〔芳澤氏〕 鐵治屋が好い機會だと許りにボルトと云ふ様な事は...

〔松野氏〕 鐵治屋の修繕賃が安いので修繕して呉れないと云ふ事を聞いて居りますが、さう云ふ事はありませんか。

増産に燃立つ小作人氣質

〔松野氏〕 だん／＼小作人の勢力が強くなつて、何か文句を言ふと作らんと云つて、地主の方が頭を下けて作らせると云ふ様な傾向はありませぬか。

〔芳澤氏〕 此の二、三年來、さう云ふ傾向がありま

九年前の大正三年頃でした。技術員が全島各地方に、総計三百人位居りまして、警察官も指導官であり、保正、甲長も大いにやつて居りました。あの時の迫力と今の街庄の若い人には迫力の差がありませんかね。尤もその頃の指導員は事務はやらなかつたですがね。あの位の迫力を皆が持てば大分違ひますね。

供出米をかうすれば

〔松野氏〕 米の供出も盛んにやつて大分成績を挙げ居りますが、我々非常に喜んで居りますが、米の供出に就いてもつとまゝい方法が考へられませんか。

〔芳澤氏〕 私の意見としてかう云ふ様にやつたらどうかと思つてます。増産と供出の促進を促すには過去数年間を基準にして、さうして一定の水準を定め、そ

の水準より以上増産した者、或は供出した者に對して府の奨励金以外に特別奨励金と申しますか、そんなものを與へたらどんなものでせうね。

〔松野氏〕 過去何年間位ですか。

〔芳澤氏〕 過去五年位を基準にしましてね。

〔松野氏〕 それは部落單位に割當らんですか。

〔芳澤氏〕 個人的にやれば良いと思ひますがね、私の考へとしては、之に反して一向働かない方の人は、例へば甲當八千斤とれる所に居つて、わざと働かずにその結果僅か五千斤位しかとれない人に對しては、米の配給を現在量より少し減らしても良いと常に考へて居りますがね。(笑聲)

〔松野氏〕 現在やつて居りませんが、植付前にやれと云ふ人と收穫直後にやれと云ふ人とありましてが、〔芳澤氏〕 收穫時になつ

當時に之をかくす者が實際に見受けられます。之を根本的に改めずには、此の間或部落に於て共同收穫をやつて之を直ぐ検斤して、それから指定納入組合に渡した所が、非常に率がよかつたのです。所が一方共同收穫をしない所に率が非常に下つて居ります。結局此の率が下つたと云ふのは米を隠して居るからだと思はれるのであります。もう一つは、かう云ふ個人の所は供出割當を定め、貰つて、收穫前にちやんと、その農民に割當量を知り、之を以て、供出米は最低之である、我々技術者から見たら之位は供出すべきだと言つて貰ふといひんです。

女も働いておます。この手、この顔を見て下さい

〔松野氏〕 今迄農民訓練所は女子部を各郡から選出して入れて居りましたが、一人や二人では歸つてから馬鹿にされた具合が悪いと云ふので、今からは集團的に入れると聞いて居りますが……。

〔吳氏〕 一市街庄から五十名宛でありました……。

〔松野氏〕 貴女はその五十名の方ですか。

〔吳氏〕 さうです。北投には五十名卒業生が行つて居ります。

〔松野氏〕 皆結束して働いて居りますか。

〔吳氏〕 え、皆一生懸命やつて居ります。

〔記者〕 女の人も田に出て働かなければならないと云ふ意氣込み、あるひは最近の農家女性の増産振りに就いて……。

〔吉村氏〕 働いて居るかどうが、此の手や顔を見ていただければ判りますよ。(笑聲)

〔林氏〕 南部は光穂の工場もありましたからね。(笑聲)

〔吳氏〕 手を見れば直ぐ判ります。農民訓練所を出た女性にはほんたうによく働きます。金山の訓練生は今般の暴風雨で五日間早く退

十三石位の收穫は百姓と云へない

〔磯氏〕 登中とか屏東とかの豊産地は別として、少くもこの良くない所で、はどれ位獲れますか。之位なら必ず獲れると、かういつさり言へる收穫は……。

〔黃氏〕 私の所では五千斤は……、それ位はやれると思ひますね。

〔磯氏〕 それ位ですか。……十六石はゆかなければいけないですね、所が従来の平均は十二、三十しかないので、之はどうかした事ですかね。(笑聲)

云ふ様な所でも十五石位はあります。がね、十三、四石の出来では百姓とは言へませんね、それが平均が十四石に足りないといふのはどう云ふ譯かと聞き度い所です。

〔松野氏〕 百姓はまだ保守的ですね、役所がかうやれば良いと何回指導してもやらない、失敗を怖がつて居るのです。所が登中州彰化郡福興庄の陳君と言ふ人が去年の一萬圓懸賞で随分澤山の收穫を擧げて一等をとりましたね。楊蔭龍さんの様に知れ渡つた篤農家ではなく、新しい篤農家ですがね、それがどうしてとつたかと云ふと役所の言ふ通りやつて、素直にその儲やつたのが成功したのです。私は役所の言ふ通りにやれと言ふ事を、皆様が歸られて一般農家に言つて下さる事は増産に取つては効果があると思ひます。例へば薄暮にじつたて

うです、之は或る州の語ですが、共同苗代をやつたのであります。それを篤農家に委託して居りました。薄暮きをやつたと云ふ事ですが、夜になるとこつそり行つて種を蒔いたと云ふ事です。篤農家と言はれる人がさうなんです。田舎の方ではまださう云ふ所がありません。

〔芳澤氏〕 結局臺灣の農民から言ひますと、祖先傳來の慣習を守つて向上心も乏しいからですよ。例へば善惡驅除の如きは發生しても無爲無策で、その儘放置して居ります。善惡はお天道さんの與へたものであつて、驅除しても駄目だとか云ふ頭であります。之を改善しなければならぬと思ひますね。

實直に指示する事を實行すること

〔鈴木氏〕 役所の言ふ通

りやると成績の上ると云ふ事に開明してですが、磯さんも御承知でありませうが、嘉南大圳が出来て所謂今の嘉南大圳組合區域で、これまで水が行かない地方が、初めて水が行く様になつて、三年に一回又は水稲が作れる様になつて、その際從來水稲を作つた事の無い農家が初めて水稲を作つて、役所としても非常にその米作について心配して居りましたが、案外その地方の米作の甲當收穫が良かったのです。例へば虎尾郡下の地方ですね。之はどうしてかと云ふと矢張りその農家が、從來米作に就いて経験が無いのですから役所の言ふ通りに、その指導に従つて米作をやつたからそれで成功した譯ですね。松野さんのおつしやつた事、あゝ云ふ事も案外臺灣の米の増産に大きな支障を來たして居ると云ふ事も察せられますね、もう一つ磯先生

所しましたが、この暴風雨のための被害を取戻すんだと言つて非常に働きました。基隆郡守さんや、金山の庄長さんから褒められました。訓練所で體得した事を發揮してみんなのために働いて居ります。

〔松野氏〕 女の人は手でやる除草は下手だと云ふことですね。膝をついて歩く事は下手で、除草器でやらないといけないと言ひますか……。

〔吳氏〕 慣れない中は一寸困りますが慣れたら出来ます。

〔吉村氏〕 一人四甲歩か五甲歩宛ですつと、殿んでやつて居ります。

〔芳澤氏〕 内地の様に膝まづいてやつてますか。(吉村氏) 貴女の方はどうですか。

〔吉村氏〕 私の方は内地と同じ様に膝をつかないでやつて居ります。

〔磯氏〕 登中とか屏東とかの豊産地は別として、少くもこの良くない所で、はどれ位獲れますか。之位なら必ず獲れると、かういつさり言へる收穫は……。

〔黃氏〕 私の所では五千斤は……、それ位はやれると思ひますね。

〔磯氏〕 それ位ですか。……十六石はゆかなければいけないですね、所が従来の平均は十二、三十しかないので、之はどうかした事ですかね。(笑聲)

云ふ様な所でも十五石位はあります。がね、十三、四石の出来では百姓とは言へませんね、それが平均が十四石に足りないといふのはどう云ふ譯かと聞き度い所です。

〔松野氏〕 百姓はまだ保守的ですね、役所がかうやれば良いと何回指導してもやらない、失敗を怖がつて居るのです。所が登中州彰化郡福興庄の陳君と言ふ人が去年の一萬圓懸賞で随分澤山の收穫を擧げて一等をとりましたね。楊蔭龍さんの様に知れ渡つた篤農家ではなく、新しい篤農家ですがね、それがどうしてとつたかと云ふと役所の言ふ通りやつて、素直にその儲やつたのが成功したのです。私は役所の言ふ通りにやれと言ふ事を、皆様が歸られて一般農家に言つて下さる事は増産に取つては効果があると思ひます。例へば薄暮にじつたて

うです、之は或る州の語ですが、共同苗代をやつたのであります。それを篤農家に委託して居りました。薄暮きをやつたと云ふ事ですが、夜になるとこつそり行つて種を蒔いたと云ふ事です。篤農家と言はれる人がさうなんです。田舎の方ではまださう云ふ所がありません。

〔芳澤氏〕 結局臺灣の農民から言ひますと、祖先傳來の慣習を守つて向上心も乏しいからですよ。例へば善惡驅除の如きは發生しても無爲無策で、その儘放置して居ります。善惡はお天道さんの與へたものであつて、驅除しても駄目だとか云ふ頭であります。之を改善しなければならぬと思ひますね。

りやると成績の上ると云ふ事に開明してですが、磯さんも御承知でありませうが、嘉南大圳が出来て所謂今の嘉南大圳組合區域で、これまで水が行かない地方が、初めて水が行く様になつて、三年に一回又は水稲が作れる様になつて、その際從來水稲を作つた事の無い農家が初めて水稲を作つて、役所としても非常にその米作について心配して居りましたが、案外その地方の米作の甲當收穫が良かったのです。例へば虎尾郡下の地方ですね。之はどうしてかと云ふと矢張りその農家が、從來米作に就いて経験が無いのですから役所の言ふ通りに、その指導に従つて米作をやつたからそれで成功した譯ですね。松野さんのおつしやつた事、あゝ云ふ事も案外臺灣の米の増産に大きな支障を來たして居ると云ふ事も察せられますね、もう一つ磯先生



【植密條正の隊身挺産増子女】

現地報告 苦難を乗り越える 文山市 延津里農民魂

青年の力て起上つた 文山市 大坪林部落

高熱のために水田の魚が死んで浮上るほどの炎天下に、大坪林部落に於ては早くも第二期作の田植が行はれてゐた。七月下旬のある日、記者は増産奮闘と聯合部活常會に出向く津田郡守、高木庶務課長等と共に賑々大坪林部落の力強い増産振りに接したが、以下は青年の熱と力て更生した部落の建設記である。

文山市役所の所在地たる新店庄に隣接する大坪林部落は臺北市から汽車で約三十分、新店より一つ手前の驛で下車する。臺北市民にとつて大坪林と云つても一寸耳馴れない地名であるが、支那事變前かつては臺北市民の食糧をにぎはして

年前、州下にその名をうたはれた模範部落であつた。増産に、生活改善に、部落の振興は實に目ざましいものがあつたと云ふ。しかし都市に隣接する他の部落がさうである様に、浮薄な都市文化の流入は、この部落にも大きな影響を與へ、年と共に部落の傳統を蝕んで行つた。殊に支那事變の發生に伴ふ指導理念の大轉換は、この部落を一路逆方向へ轉落せしめてしまつた。

深刻ならしめ、更にそれは精神的な方面にも及び、農に魂を打ちこまうと云ふ者が少なくなつた。青年たちはいよいよ離村する。常會で如何に農事改良を指導しても實踐する者はなく、堆肥の増産に、苗代の改良に、正條密植に、一つとして進んで國策に協力しようとする者がなかつた。殊に蔬菜園藝等雑作の禁止、制限は農民の士氣を著るしくに落らした。そして何時も問題になるのはこのことであつた。毎年その時期になると農民の不満は、ともすると表面にあらはれようとした。

しかし大坪林部落はかつては厚生村として州下で知られた模範部落であつた。當時と今とは國家の要請に大きな差があり、かつては云へ、歸するところは一つである。何時か十年前のあのたくましい意欲がよみがへつて來ないと云得よう。

て來てゐる二三の青年はひとしく惱みつづけた。農民の練成の成果がもたらすものは農民としての自覺であつた。やがてそれは力となつて上つた。常會で傳達されてゐる貯蓄、米穀の供出、正條密植の徹底も、やがてしく云はれて漸くすると云ふ始末、決して手綱をゆるめることは出来ない。しかも他から強要せられての協力は、何時かは行詰るときがある。村には多くの老農もをれば、かたくな男もある。村を救ふものは青年の熱と力以外にはない。かうした革新を呼ぶ聲は昨年の第二期作刈入れ後部落内に澎湃として起つて來た。

その革新の中心は、大坪林國民學校の中山新輔訓導であつた。彼は部落生を抜きの青年で、両親もかつてはこの同じ學校の教員として多くの有爲な青年を育てた教育者であつた。二度中山訓導の一身にかう云ふ

ことが起きたことがある。彼は師範在學時代籃球の選手であつた。特に體操方面に優秀な技能を持つてゐる彼に目を付け、臺北市内の學校より轉任の懇願があつたのは二度のことではなかつた。舊師の温情をこたわらねて、ある時は轉任の希望を遂に郡の渡邊視學に打明けたことがあり、君はこの部落の出身であり、しかも今自分の出身校に歸つて來てゐる。成程臺北市内の學校に勤めることはあるかも知れない。しかしこの重大な轉換期を切り抜けなくて喘いでゐる大坪林部落を救ふ者はだれか、君こそは大坪林を率ゐて立つ人物だと自分がかねがね思つてゐた。部落を救ふことが大切か、臺北に轉任することが出世か、どちらが國家に盡す道か、とちり考へて見えてくれ」と視學は熱意をこめて一時間あま

りも懇々と説いた。まだ十二歳と云ふ若さの感受性の強い中山訓導はたゞ一言力強く「やります」と答へた。

氣勢を舉 中山先生を中心として、部落の青年達は、そのやまねぬ心を語り合ひ、一人々々と眞の同志を求めてまはつた。雨の夜も、風の日も、またある時には寒い北風に吹かれながら空しく入れられずに歸る青年達の姿も見かけられた。

部落民に聲明したのであつた。これには大坪林の波多野校長もあまりの突然さに一寸意外の感をいだいた程であつたと云ふ。しかし語り合つてゐるうちにその真意のあることを知り、その總裁となることを承諾した。かくて大坪林部落は、青年の働きかけによつて、たくましく起上つたのであつた。



津田文山郡支會長

「從來ともすると青年團と部落民とはあまりにもかけ離れ過ぎてはゐるなかつたか、

ひかり會がいよいよ活潑な動きを見せたのは、本年度の第一期作の啓動であつた。先づ部落會と青年團に協力、短冊揚床苗代の設置に協力することになつた。短冊になる四尺幅の實行は容易であるが、揚床が不十分である。揚床にするためには約二倍の時間を要し、しかも泥中作業を要するので、技術は甚だ拙劣である。ひかり會員は青年團幹部の者、指導員と共に自ら泥田の中に下り立ち、誠意をこめて實地指導を行つた。

部落民は青年團を國民學校の附屬物であると思つた。な見方をしてみれば、青年團自身にしては積極的に部落民に働きかけることになつた。これは、血の氣の多い青年が

その結果は、七張、十張、一〇〇%、十四張、二十張、は一篇所、實斗層一篇所不徹底と云ふ、部落にとつては全く劃期的な成果を収めたのであつた。

この時にはわざわざ津田郡守も出席、午後八時より實に二時間半と云ふ時間を農民によく納得の行く様、正條密植の方法を相談、一人残らず、この第一期作からは正條密植をなすことを力強く誓ひ、大いに氣勢を舉げて解放した。豫想外の効果に感激したひかり會員達は、このまゝ解散するにしのびなく、郡守をひきとめて、引續き懇談會を催すことを申合せた。第一段の工作は無事に終つた。しかし後には未だく問題が多い。いよいよ實施となつて居る者の者はないか。正條密植の初期はやはり車輪式によることがよい。播種正條器はとかく不便が多く、使用しにくい、とにかく第一回目である、農民にとっては目新しい事だけに、これを徹底させるためには尙幾多の困難が豫想される。青年たちはいよいよ決意を新たに挺身することを津田郡

守に誓つたのであつた。三月半ばとは云へ、夜が更けると共に、ガラス窓のすき間より吹き込む風は寒かつた。外には冷えわたつた十六夜の月が稲田を照らしてゐた。遠路をこれから徒歩で新店に歸る津田郡守を先頭に青年の影が畦道に積りてゐた。一時に近い夜更けである。

て増産挺身隊を結成、學校の兒童も協力、各地區に分れて、協力を申出た田に植付を行つた。十九日には梁井登北州知事が啓動のため七張部落に駒をすゝめ、特にひかり會長王慶輝氏に對し、大いに激勵するところがあつた。

「守に誓つたのであつた。三月半ばとは云へ、夜が更けると共に、ガラス窓のすき間より吹き込む風は寒かつた。外には冷えわたつた十六夜の月が稲田を照らしてゐた。遠路をこれから徒歩で新店に歸る津田郡守を先頭に青年の影が畦道に積りてゐた。一時に近い夜更けである。」

かくて第一期作の正條密植は特にひかり會員の率先垂範により多大の成果を収めたが、一會員はこの時の體験を次の如く記してゐる。

公壯年團員の如き役割を果させることが必要だと思つてゐる。要するに部落民と青年層とが一元的に活動しなくては、亦をなすに困難である。實録の人皇民奉公會文山郡支會長津田郡守は最近の青年團の啓起についてかう語るのであつた。今茲北州下の奉公運動の中でも、特に注目をあびてゐるのは、文山郡下に於ける成果であらう。茲には先に總督府より模範部落として指定を受けてゐる青潭部落がある。青潭部落の存在こそは一間新與文山郡の名を高からしめた。しかしそれにもまして功のあるのは、津田郡守の率先垂範にあると云はなければならぬ。氏は巻脚絆の常用論者である。「決戦下だ。何時空襲を受けるかわからないではないか。いざその時になつてあつたのでは民衆の指揮はとれない。それに巻脚絆をつけば自づと緊張して来る。だからと云つて決して部下に強要しようとは思

はない」と云ふのが彼の巻脚絆常用の持である。ところが今では郡守になつて、郡役所の職員はもとより、郡下の街庄役場、國民學校職員に至るまで、郡下あけて國防色の眼に巻脚絆をつけ、一步郡内に入れば、先づ服裝を通して濃厚な戦時意識を感ずることが出来る。去る七月二十六日、全島の主なる市長、郡守を集めて、皇民奉公會支會長舘野會が開かれた時、彼は皇軍支會長と云ふ立場から、その日は國民眼に巻脚絆と云ふ出席で出席した。純白な官服の多い中にただ一人巻脚絆を着けた彼の存在はたしかに異彩を放つてゐた。徒らに官儀としての威厳のみを誇示しないところに彼のよさがあるのではないか。

かつて郡守と云へば一部の縣下と云へば、一年に一度學校の卒業式に臨席のため、郡下の僻地に足を伸ばせばそれでよかつた。まして郡守が農民と語るなど夢にも考へら

れてゐなかつた。所が皇軍運動發展以來、かうした緊迫感は一掃されてしまつた。先づ支會長たる郡守が率先垂範すべき陣頭に立たなければ、民衆は起らぬ。増産には、府署にしろ、その成果は全てが郡守の頭指揮の如何にかかつてゐる。郡守が起れば民衆も起る。殊に多感な青年層がどうして起ち上らずにゐるのか。

今では文山郡下の農民たちは、正條密植にしろ、堆肥作りにして、その仕事振りを一服郡守に見てもはげば納得しない。素朴な農民たちは、郡守の一言をきけば、有難がつてゐる事か、郡守さんがよく云つたこと、彼等は大聲張りだして云ふ。これはよく出来た、却々立派だ、と郡守が農民の肩をたたけば、「ありがたう、またいつしやい」と答へる。かつて見られなかつた若い氣力が文山郡下にはみなぎつてゐるのである。



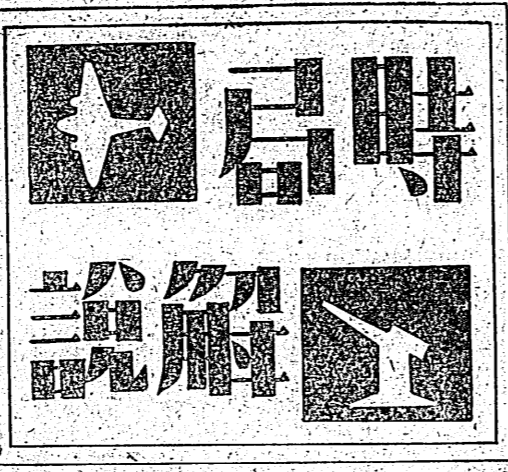
正統密植指導のヒカリ員
員たる役場の副水産さんと
黙つて車輪器で條をひい
た。これでも尚ほしないこと
があるものかと思ひなが
ら、理解のないのが悲しく

いさゝかいきどほろしさを
感ずる。しかしそれが農民
の粘りである。これを指導
することが一番大事だと思
つた。かうして大坪林は完
全に正統密植をなすことが
出来た。
この上は天災なく、美事
にのみつてくれたら、一期
作にはきつとこちらが云は
なくてもやるだらう。と聲
作を祈りつゝ、督勵を終つ
た。今は一面美事な青田
だ。
泰公運動に かく一大
減私敢闘 坪林部落
り會を中心とする青年たち
の血のじむ様な努力がむ
くいられて更生した。僅か
半年足らずに、今では青潭
部落に次ぐ模範部落に更生
してゐるのである。實に青
年の奮起こそは津田郡守の
説くどく、泰公運動の成
果を左右する鍵である。記
者は大坪林部落が更生する
までのかうした経緯を聞き

つゝ、深い感動を覺えずに
はおかなかつた。
今年の第一期作の體験こ
そは部落民にとつて實に貴
重な體験であつた。今第二
期作の田植に敢闘をつゞけ
てゐる農民のたくましい顔
は、明るく輝いてゐる。早
くも半ば以上植付を終つた
在來種の田圃は、どの田も
どの田も美事な正統密植ぶ
りである。
非農家女子の協力も好成
績を収めてゐる。平均五日
間の出場、この間の午前中
はそれぐの家から、ある
日は職場から部落に歸つ
て、一日一甲歩つゝの田植

である。
殊に注目すべきは、大坪
林にあつては國民學校の先
生が指導者となつて、百姓
と共に田の中に入つてゐる
ことである。泰公運動の推
進に學校職員が協力する協
力を求めようと思ふのは、
津田郡守かねてからの方針
であり、先生が起ち上れば
自然に教子も起ち、ひいて
は父兄も起ち上り、指導が
容易であると思はれる。文
山郡下に於ては學校職員は
常會指導に、あるは食糧
増産に、懸命の努力を續け
てゐると云ふ。
(編輯部)

皇 民 新 聞 (週一回発行 二年間三回)
平易な國語で書かれた小説新聞。兵隊さん
のはたらきぶり、お内國の動き、泰公運
動のこと、その他農業記事、小説等をのせ
てゐます。
社 開 新 民 皇
町 桑 市 北 台



足並の揃はぬ反樞軸軍

— ケベック餘談を續つて —

スターリン氏は
何故参加せぬか
問 久しく御無沙汰して

るうちに、すっかり秋ら
しくなつて來ましたね。常
夏の臺灣でも朝夕の陽光が
消えきつてきました。
答 二チャールズの所謂秋
の木葉の散り敷く頃か迫
つて來た譯だが、東部戦線
が少し活氣を呈してゐるだ
けで、地中海方面の所謂第
二戦線は春日遅々ぢやない
か。
問 改選後のイタリアの
動向を注視してゐるのでせ
うね。
答 イタリアを少し甘く
見過ぎてゐるんだね。ファ
シスト黨の崩壊でイタリア
は無條件に手をあけてゐる
と観てゐるんだ。だから、
勢ひに乗じた米英は「イタ
リアの無條件降伏を要求す
る」などと飛んでもない見
當違ひの見榮を切つて、却
つてイタリア國民の米英に
對する敵愾心を昂揚せしむ
の結果になつた。
問 イタリアはたしかに
ちがつて來ましたよ。妙く
とも、二十五年前までの
あの南歐的な、小市民的な

享樂主義的國民でなくなら
てきましたよ。
答 ファシストの功罪は
後世史家の批判に俟つとし
ても、國民の心構へが昔と
ちがつて來たことだけは事
實だネ。イタリアの評論家
マリオ・アッブルウスの言
葉を借りて言へば「最初の
衝撃に脆くも崩れ去つたフ
ランスの如き國家、或ひは
廣大な領域と、軍略上通か
に有利な條件と、無限の富
とを有するにも拘らず、合
衆國の援助によつてのみ生
き、凡ゆる面目を傷つけて
まで乞食行爲に墮身をやつ
た英國」の如き國家とは
根本的に違ふのだ。アフリ
カに於ける、あれだけの廣
大な植民地エチオピア、リ
ビア、そしていま又その本
土と一帯帯水のシチリア島
に米英加聯合軍を遣へて、
連日の敵の猛爆下に尙勝利
の希望を喪はぬイタリア國

民に對して、吾等は心から
の稱讃の辭を惜しむべきで
ない。
問 全くです。假りに立
場を代へて(無論そんなこ
とは絶対にあり得ないこと
でもあるしあらしむべきで
はないと思ひますが)、萬一
日本が、帝都を中心として
本土の重要都市が連日敵の
爆撃下に曝されるとしたら
どうせうか。想像つただ
けで僕は鬱鬱が寒くなる様
な氣がします。
答 一勝一敗、有爲轉變
は戦ひの常だ。盟邦イタリ
ア國民の、この強い決意、
不屈の剛魂に對してでも、
もつと吾々はしつかりせに
やいかんや。
問 敵はシチリア戦局の
終焉近しとみたか、どうか
例によつてルーズベルト、
チャーチルの第六次會談を
始めましたか。
答 ケベックとは飛んで

戦後の経済学

大東亞戦争は益々苛烈な相対を呈して参りました。敵は遙か南方から、又北方から全力を以て吾れに挑みかゝつて居り、その悪鬼の如き形相は、緒戦以來曾て見ることを得なかつたもので、如何に彼等が戦争に眞剣になつて来たか、之によつて十分察知され、この敵を撃破するには、全國民が唯戦力増強の一點に凡てを集中せねばならぬことは申す迄もありません。

水稲の多收競争

臺灣農會の十八年度水稲多收競争、技術の第一期作審査の結果によると、前年同期の甲當り五十五石以上二點に對し、本期は七點、四十石以上九點に對し、三十八石以上一點に對し、五點と、それぞれ非常な好成绩をあげて居ります。

勤勞者缺勤の防止

本島の工場、事業場に於ける平均缺勤率は十四%以上上るといふ定に遺憾な状態にあり、八月一日から一箇月間「生産増強勤勞防止運動」を展開、相當の成績を収めました。

配給の査察制度

去る七月十二日の皇民奉公會委員、委員の諮問の一つ、物資配給に関する事項をあげて居ります。臺灣農民もどうかこの集約農業を先め、單位面積當りの増收に進み、以て國家當面の要請に應へるといふに、近代農民としての誇りを示さうではありませんか。

産組の八千

臺灣農村の産業組合は、内地のやうに販賣組合、購買組合、信用組合等は在外に發達して居らず、主として信用組合のみが跛行的に發達して居るやうです。勿論、茲では之について述べようとするのは、斯様に信用組合の發達して居ることには、今同の如き産組貯蓄増強には頗る便利であつて、相當多額の貯蓄を負擔することが出来るといふことを示さなければなりません。

衣料の決戦態勢

戦時の衣料態勢が強化されました。それは繊維製品の種類や規格を大幅に壓縮したもので、織物類の種類が従來二百九十四種もあつ

項については、色々意見も出ましたが、その中で物資配給に関する査察制度を設けよといふものが若干ありました。非常に結構なことで、官達でもこの要望に應へ、各州縣單位に査察制度を設けることになりましたが、茲で特に注意すべきは、配給事務は素より、經濟警察を以て包含し、之等一切のものに對する監視制度であるとする意見に因はれることとあります。大體配給事務に不正があるか否かの監視は經濟警察が之に當り、更にその背後には法院の檢察制度が嚴として控へてゐるので、それ以外に軍上層を重ねるやうな監視的機關を必要としません。

資糧の流に圓滑で無いところがあつたらばその原因を究め、圓滑に流れるやう當事者に注意を促す協力機關であり、又さうあらねばならぬものであり、之をば配給するものや配給を受けるものは素より、現在の取締機關と對立的なものと考へるは、安當で無く、又、左様なことを望んで戦時下國內に對立を醸成するやうなことがあつてはなりません。

千萬元、即ち全額の二割を引受けて進進して居ります。そのため、八月、十二月三月の三回に亘つて、米英撃破産組戦時貯蓄運動を展開することになり、第一回は八月二日から十日迄、全島五百の産組を動員して實施しました。

戦争生活の徹底

犬と音楽と

食欲の話

— 民族心理の問題 —
鹽見 薫

専門家の研究によると、犬にたいして一定の時間に、たとへば毎日きまつて十二時に、音楽をきかせながら食物をあたる、それを根氣よくながいあひだつづけると、食物はあたへなくとも音楽をきくだけで、その時間になると唾液を分泌するさうである。それがさらにのちに、その時間になると食物もあたへず音楽もきかせなくとも、唾液を分泌するやうになるといはれてゐる。さうなるまでの事情を知らない人々には、ある一定の時間に唾液を分泌するが、その天性であると思はれるかも知れないけれども、實際はさうなべたやうな事情からさうなつた

のにすぎない。すなはち、まつたぐ環境から受けた影響、その結果であるわけである。人の性質や民族性といふものについても、これとおなじ理由から、先天的なもの、簡単にきめこまれてゐるもの、なかには、必ずしも先天的ではないもの、つまりもつて生れた生れつきではない、環境のせいであらうなつてゐるものも少なくはないであらう。もちろん、大根はどんな畜にうゑても、またどんな肥料をほどこしても、ほんじにならぬことばないのだから、環境の力がいかによつてもどうにも變へられない個性といふものはある。これをまで否定することはできないけれども、それと同時に、さきに云つたやうな環境の影響を受けた結果さうなつてゐるものもあり、しかもそれが環境の影響であると思はれるないで、まつたぐ先天的なもののごとく考へられてゐることもよくなくはないやうな氣がする。もしさう

だとすれば、いまの本島人に内地人たちがあつた氣分や考へかたがあると、それは必ずしもどうにもならない本島人の民族性であるのではなく、環境のためさうなつてゐるにすぎず、環境とともに改善される見込みは充分あり、といふことになるのである。私も、本島人の生活感情や人生観を、いちがいにただ輕蔑したり無視したりしないで、それを正しく理解しなければならぬ。正しく理解しようとする態度をまるでもたないで、あたかも本島人は駄目だなど、あまり立派でもない内地人が云つてゐるのを聞くことがあつたが、こんなことが本島人の皇民化をさまたげる結果になりはしないだらうか。

だいたい、内地人が臺灣で何かほんとうの仕事をはじめしようとするならば、どんな職域であつても、本島人をたたく理解してゐなければならぬであらう。しかし實際はどうかであらうか。領事官等はじめて渡來した内地人が本島人について経験したことがらや、うけつた印象がそのまゝうけつてゐることはないだらうか。總督府の五十年にわたる努力のおかげで、本島人の生活も、物質的に精神的にさう進歩してゐるであらうのに……或はまた、この新しい同胞にたいし、彼らの缺點をのみ指摘し強調して、さういふ悲しい缺點がどういふ悪い事情からさうなつたかを考へてみようともしない、そんなまぢがつた態度が、私も内地人にありはしないだらうか。もし本島人の精神に、見のがせない暗らさがあるとしても、また、だまつてはをれないわい癖があるとしても、それらを彼らの民族性であるとして改善の努力を放棄するところであらうか。また私は、本島人を理解しなければならぬ、と書いたけれども、理解といふのは、缺點を見のがすことでは勿論なく、それをただしく見ぬことである。ただしく見れば、それを指導し改善せしめる方法も自然現れてゐるにちがひない。さて、本島人の性情には先天的に固有な部分と、歴史的な環境的な部分があるだらうと云つたが、性情が環境の影響をうけるのはわれら大和民族においても變りはない筈である。内地人がこの島に移住し始めて

から五十年、これらの内地人は、西里の波瀾を拓開、せよとの聖旨にこたへ奉らんとする積極進取の大和民族のいはば先鋒であつたため、この島の氣候風土の悪條件にうちかちつ、こゝを完全に、日本の一部分としてつづがし、ないものにしようとしたのであつた。それは大和民族の初めての経験でもあつたため、その成果は世界諸民族の注目するところであつたといはれるが、私どもの先輩はその任務を充分に果したのであつた。その功績は大和民族の歴史の上に輝かしい数行を書きこはれたことにさへならうが、その後をつづべき今の私も自身はどうであらうか。もちろん、充分覺悟はできてゐる、たゆまず努力はしてゐるつもりではあつても、泰平の餘澤をうけて質實剛毅の精神を失つてゐるにないだらうか。云ひかへれば、環境に支配せられて、知らず識らずのあひだに、たとへば勤勞をいとふ氣持がさしてゐるやうなことはないだらうか。徳川時代、武士の精神が惰弱となつてきたとき、當時の學者のなかには、その原因を、武士が城下の都會に定住して戦國以前のやうな農耕をすて

たためとなし、郷村に歸へれと唱へたものもあるが、いまの臺灣在住内地人には、めぐまれた生活になつて、祖先のいな父祖の勤勞をさへ知らぬ青少年がすくなくない。門司について、油にまみれて働いてゐる労働者が内地人なのに、氣つき内地人でも、こゝな姿で働くのだらうかと驚き悲しいのである。けん、私の娘のごとき、祖父の汗と泥の姿を知らず、祖先以來官服を着てゐるたかのやうに思つてゐる。これが本當に内地人の素質をきたへおける生活であらうか。内地人の中には、内地人の體面を保つために、待つと待遇をよくしなけれ、など云ふ人があつたけれども、日本人の體面といふのは、物質生活にめぐまれてゐる状態をさすのではなく、むしろめぐまれない物質生活に、もめけず、毅然としてゐるところにこそ、眞に日本人の日本人たる體面が存在するであらう。いたすらに口先きで日本精神を高唱するよりは、生活において日本精神の美しさを本島人に示さうではないか。食糧増産にしても、土にまみれて働いてゐる農民大家を激勵するやうな時、激勵に

でかける人々は本當にまじめな日本人に歸らなければならぬ。本島人農民を鞭撻するときにやはり内地では自分たちの親兄弟が土にまみれてゐる姿を思ひうかへてもらひたいものである。(筆者は臺北高等學校教員、農事生活部厚生委員)

戦ふ女性

林 恭平

本島女性の眼を見よ。戦ふ眼差しとして除くにも縁が過ぎるのではあるまいか。関東大震災直後の帝都は市民の老若を問はず爛々たる眼光を放つてゐた。異常な出来事に全力を果して反撃しようとする精神のあらはれにはかならなかつたのだ。若い娘達の眼もキラリと光り、服装は誰が質素な縮緬で顔に白粉氣一つなかつた。今大東亞戦争のため戦力増強にすべしと、けねばならぬ時に、われわれ國民の一部の眼がほ不思議が始まつた瞬間、敵がどんなに強くても必ず勝ち抜くぞと皆が心に誓つたあの眼としては、現在最も強く要求されるのはどんな場合にも決して屈しない。どんな困難があつてもそれは必ず勝ち抜くといふ心構へで、眼は心を表はす——不動の眼に爛々たる「かじやき」を持つてゐる筈である。今日の戦争は武力戦のみを以て勝ち得ぬことは明らかである。思想戦、生産戦に於てもこれと歩調を合せて勝ち進まなければ最後の勝利は得られない。女性はこの思想戦の戦士として重要な役割を演ずるものであるが、また生産戦に於ても、男子に代つて充分働き得ることになれば、戦力がそれだけ増大するのである。今後ますます生産が擴充せられて來るとそれに必要な努力として女性一般がもつと、生産部面に出て來なければならぬと思ふ。敵アメリカなどの最近の實例によつても女性が軍需工場で働いてゐる數といふものは大へんなものであると傳へられてゐる。今までヤンキー娘の念頭には映映或は流行の服装、化粧品、口紅しかなかつたのであるが、そのアメリカの女性達がお化粧も疎かしくないで軍需工場で働いてゐるとのことである。それほどにこれらの心構へは變つたのである。今までの自由主義

享樂主義の共和國アメリカと云ふ國は消えて總力戰的な獨裁國アメリカといふ國が浮き上つて来たのである。この變貌をわれわれは直視しなければならぬと思ふ。アメリカの女でさへもこの様に變つて来たのである。ところが本島では、敵アメリカの女性がかたがた自由主義とか利己主義とかいふやうなものがまだに抜け切らないでゐるやうである。本島女性の一部には尙ほ盛裝に身をやつし戰爭してゐることを知らないのではないかと疑はれるやうな女性もあるのである。これからは戰爭なんだ。勝つためには男子の力が足らなければ女子が出てゆくのだ。さういふ考へになつてもらひたいのである。近頃よく雑誌などに稲を刈つてゐる娘の笑顔や輝かしく、働いてゐる娘さんの口輪などを見るがまことに望ましいことである。

或る飛行機製作工場に働く女性が眞珠灣攻撃のあのニュースを聞いて躍り上つて喜び、自分も軍と一しょに進軍したいのだといふ大きな誇りを感じたといふことである。職業戦線の若い女性がこのやうに自分の職業に誇りを感じたことを私は非常に

大溪の演劇 挺身隊

阿部定雄

新竹州大溪青年團によつて結成された大溪演劇挺身隊は、去る七月十八日、臺北市公會堂に於て青年劇の試演會を開催、多大の反響を呼びました。

抑々この演劇挺身隊は、臺北市の人々に見せる目的で計畫されたものではありませんが、それが臺北市の公會堂に出演した譯は、熱意のある大溪郡の青年達が、娯樂に貧困な農村に在つて生産増強を叫ぶ一つの方便としての、所謂「娯樂の假面」を被つた奉公運動の回覽板を、どんなに工夫し取扱つてゐるかを都會の人々にお見せすることになつたのです。

ところで本誌の讀者諸君の内でも日お越したつた方は、いくらかも無管だから、見ない方々にあれこれと書くことにしても、それは興味の少い話であります。あの日の出演種目は、宣傳舞踊、音樂、演劇の三つあつて、最後の演劇に就て聊

子女史の口から出る言葉は、可憐な名優の藝と相俟つて、實に不思議な魅力を持ち觀衆を引き留ります。ここに演劇の効果を知らなければなりません。

従来本島は演劇に貧困だと言ふのが通り相場です。むろん舊派にしても、新派にしても、又新劇にしても、目星い役者は來てゐないのですから貧困と言へば貧困ですが、と言つて、豪華な舞臺、衣裳に執着を持つ、職業的俳優の演ずる享樂本位の演劇などは、別に海を渡つてもらふ必要はないのであります。況や古い形の發行人情を繰り返されては調子の遅さに全く參るのです。

それよりも、愛國運動と言ふものが、感激を以てその一大原動力とする限り、奉公運動の熱意に燃えて舞臺に立ち、觀衆に感銘を與へる國民劇こそ、眞の演劇と言はなければなりません。見事に演じた役者は、必ず脚本の狙つた理念を掴んでゐる筈です。だからこそ、役者の素人に拘らず、觀衆は彼の言葉を女史の言葉として耳を傾け感銘に打たれたのであります。この種の演劇が成功す

生活簡素化 について

宮本延人

男子の服装簡素化に關するおふれが出た事は近來の快事である。古い殺から解放された様な快味を感じるのである。半袖半ズボンで飛び廻る人間に對して、輕薄な南方歐米人の風を真似るものだと言ふ考へを持つてゐられる紳士淑女も相當まだある事と思ふが、暑い臺灣で一體なぜそんな苦しい上着を着、甚しきはテヨツキまで着て容體を整へなければならなかつたかと言ふ事である。筆者は常に少々性質の悪い見方でお叱りを蒙るかもしれないが、途方もない様な滿飾の御婦人などの姿を見るたびメロメロと、アメリカインディアン等の御大層正裝を思ひ出したのであつた。

淺いながら私の學問の立場から、服装の複雑にして華美であると言ふ事は決して民族の文化の高、標準にはならない事である。寧ろ洗練された美と云ふは民族の藝術の分野に於ては簡素化される傾向にある事を私は感ずるのである。服装の簡素化が纖維材料の不足と云ふ事から來てゐるかも知れぬが、むしろこれは一つの切かけであつて能率と云ふ點、國民生活の合理化と云ふ點からいへばよく考へてもよいのである。個人的興味を捨て、國民生活の形式を新しく建て直さうと云ふ點で、新しい美を創造して行く必要があるのだ。嗜によると反物の長さの規格が短くなると云ふ事から、盛に與服屋の買取りが行はれてゐると云ふ事である。私はこの様な人達は歴史を知らない人達だと憐れを感じるのである。徳川末期の文化文政の爛熟時代は再び來らず、明治の文化は別の形で映き、西鳴鐘華かなりし服装は遠く來らずして大正昭和となつたのである。服飾の歴史は變遷して行く。新しく來らんとする未來を知らずして、徒に舊套に戀々たる人こそ憐れと云ふべきである。

服装の問題は先づ一段落として我が生活の一大事たる結婚葬儀の間

題がまだ残されてゐる。冠の事は今は左程の問題もなく、婚については人生の新しい出發であるため希望に燃え、その改革も比較的容易の様に見える。然るに葬は人生の最も深刻な事件であり、平常は奥に潜んでゐる宗教心が表現せられるため仲仲簡單には片附かない問題なのである。祭もさうである。人の心の奥を變へる事は仲々むづかしい。

冠婚葬祭は民族の重大なる土俗である。民族の傳統を表現する一つの形である。この意味から私は日本民族の冠婚葬祭には日本民族の傳統を傳へる土俗を尊重しなければならぬと思ふ。この土俗が時代の要求する生活條件に矛盾しない様に適當に變遷して行く所に文化の發達があるのである。

舊慣信仰の改善に伴つて起つて來た問題に本島人の葬儀形式の問題がある。在來の形式即ち、香花僧や、烏頭による葬儀を捨て、日本式の佛式や神式による葬儀にしようとする運動である。日本民族たる本島人が、日本民族傳統の形に葬儀を變へて行かうと云ふ所に大いに意義があるのであるが、人生の最大の精神的

苦惱事たる葬儀を古來の傳統を捨てて新しい形に變へると云ふ事は大なる努力を要するのである。内地式による佛式で葬儀を行つた後に、別に道士や香花僧を招いて一通りの舊式の儀式を行ふと云ふ事は屢々耳にする所であり、甚しきは神式で儀式を行ひ、佛式で行ひ、次に在來の式で行ふと云ふ三段構へのお葬式を行ふ金持もあると云ふ事を聞いてゐる。

簡素化と云ふ時代と凡そ縁の遠い話であり、神式や佛式は官廳や一般社會への申辯的形式で表面を糊塗する手段に過ぎず、結局は在來の形式が眞實だらうと云はれても仕方がないのである。公葬と私葬と云ふ様な場合ならば格別であるが、一家で行ふ式を二度も三度もやる必要は決してないのである。新式で行つても一應は舊式でやらなければ老人が承知せぬと云ふならば、年寄を納得させるが、然らずんば一家揃つて心か故人の冥福を祈り得る舊式に從ひ、徹底的な新形式は行はない方がまだ眞實である。簡素化の趣旨にも合ふのである。祖先を敬ひ、父母を敬する點から葬儀を非常に重視する本島人風習はその趣旨に於ては結構である。

音爆

△奉公運動
△進歩の原動力
△進歩の原動力
△進歩の原動力

日本人は玄米食と味噌汁と、耳東風、これを實行して野蠻なだけで充分に健康を維持できることは確實である。それは色々の原因もあらうが玄米は不味い、味噌は酸味しいものはない。玄米食は玄米の炊き方によつては白米以上に美味しく食べられ、しかも栄養は豊富であり、節々の困窮にも願應してゐる。まさに一石二鳥の得がある。我々

政府では國民に向つて玄米食を盛んに奨励してゐるやうに思ふが、國民は一向馬鹿である。(黄鼠狼)

あるが、新しい生活様式の上からは、重葬儀が現出したと思ふが、これは指導者も民衆もつとよく協力して考へなければならぬ、事情であらう。

内地式の葬儀に關しても随分だが考慮を要する點があると思ふ。故人の徳をたへるため葬儀を出来るだけ盛大にしたいと云ふ事は遺族にとつては無理からぬ事であり、合葬者も亦これを破んで長時間の式典に我決できる矛盾としてかう云ふ様な二

玄米食の實行

玄米食に就いては種々論ぜられてゐるが、玄米食の美味しいものはない。玄米食は玄米の炊き方によつては白米以上に美味しく食べられ、しかも栄養は豊富であり、節々の困窮にも願應してゐる。まさに一石二鳥の得がある。我々

政府では國民に向つて玄米食を盛んに奨励してゐるやうに思ふが、國民は一向馬鹿である。(黄鼠狼)

ないが、唯儀禮的に参列した人が生欠伸を噛み殺して辛抱する事は、必ずしも故人に對して禮を盡した所以でもないと思ふ。遺族としての立場と、参列者側の立場とを二應分離して考へればよいのである。最近行はれたR氏の参列には、儀式は遺族近親者のみによつて行ひ、その後一定時間内に會堂内に安置された遺體に自由参列する方式をしてゐた。筆者も嘗て亡父の葬儀にこの形式を採つたのである。一般参列者はこのために非常な時間の節約となるのである。親戚や親しい縁故者はそのために時間をつぶしてもかまはないかも知れぬが、數十人数百人の足を一時間以上止める事は決して今の世には合理的ではないのである。著名な人の葬儀等はさうは行かぬかも知れぬが、同じ様な申詞を各種の代表が入れ代り立ち代り朗讀する事も考へべき事であると思ふ。この頃は自然になくなつたが、弔電文を數十通読み上げる事などはどうしても變で、そんなら参列してゐる人は一々くやみを云ふべきではないかなどと考へられて來るのである。

特に勤功をたへる人とかの葬儀の外は出来るだけ喪主側と参列者側の立場を分けて考へて見るべきであると思ふ。

次に私は香奠のお返しと云ふものはどうも腑に落ちぬのである。香奠は一家の不幸に對し、その負擔を友人が分ける意味があり、相互扶助的社會理念の意味から云つて理由が認められるが、これに對し、お返しをするると云ふ事は折角相互扶助的の意味を損う結果となり、今の世の中では無駄な物資の浪費となる結果となるのである。戴いたものは有難く頂いて置いた方が結構で、お返しのために無理算段をしなければならぬ人はこのために大いに助かるであらうし、餘裕のある人は國防献金なり慈善事業なりに出す事も結構であらう。

本島人の葬儀の問題は前にも記したが、葬式の儀式の外に、土葬の問題、墓地の問題、これに伴ふ地理師の問題等色々な附隨した問題が出て來るがこれは又別の機会に述べて見たい。

葬式の事ではないが私は臺北に東

京の多摩墓地にある様な納骨堂、即ち遺骨を預る所が作られても宜いと當に考へてゐる。

多摩の納骨堂は五年以内の期限に限り一定の料金で骨を預けられ、参拜すれば隨時これを堂から取り出して同宗派によつても供養或は禮拜出来る様な組織になつてゐる。

臺灣にあつて客死し、種々都合で容易に内地に骨を持つて行かれぬ事情の人が相當あるのである。この様な人々の遺體を下葬に預つてくれる立派な箇所を臺北に設けたらどうか考へてゐるのである。(筆者は總督府文教局調査員、皇學生活部厚生委員)

東京文壇大教授 文壇博士 有 高 巖 著

大東亞現代史

本書は大東亞全圖を以て範圍とし、南洋(南洋群島)に於ける近年(近年)の動向(動向)を詳述して現下時局の推移を明らかにし併せて各地方の沿革を略叙し國民の必讀の好書

大日本佛教會編輯

南方宗教事情とその諸問題

大日本佛教會編輯

編輯者 文壇博士 有 高 巖 著

南洋(南洋群島)に於ける近年(近年)の動向(動向)を詳述して現下時局の推移を明らかにし併せて各地方の沿革を略叙し國民の必讀の好書

生活の新科學

東京・小石川 東京開成館

日本滑空飛行 清水六之助著

東京・小石川 東京開成館



桔梗俱樂部三日入營 常在戦場の精神を女性の生活に

一周年記念日の行事として、桔梗俱樂部では去る七月二十四日より三日間、第五部隊に入營、銃後女性の奮闘を大いに振起し賜った。その日の感激を部員に聞く。

三日の體驗生し 勤務實踐に挺身

本營に身、三日間でした。お忙しい中を私達の爲に色々とお指導下さった軍の方々に感謝の

念でいっぱい。けれども、私は三日間の訓練を通して、正直の所もつくづく感へて頂く覚悟を致してをりました。又、その覚悟だつたと思ひます。訓練中、實に揮ひ所へ手が廻り、脚に氣をつけて下され、私達としては身の置き所がない程でした。少くとも、私達はこんなに頑張れるんだ、といふ所までの忍耐力を發揮出来なかつたのが、感念でたまりません。

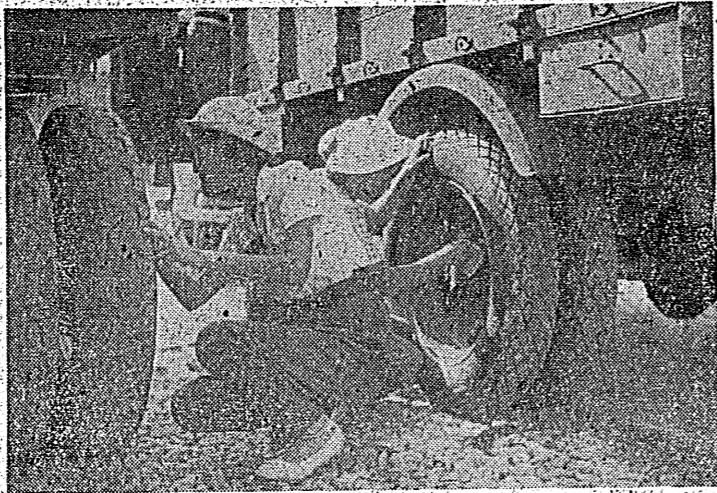
實に眞實な三日間ではありませぬ。

したが、この様にそれこそ、まだまだ勉強したとか、十分に分つたとか云へるものでなし、部隊長さんやおつしやつた様に「師王で云へばしやつた程度」なのです。

今、南太平洋に於ては決戦決戦の日々がくり返されて居る。又大陸航空線に於ても新展開を見たり、私達銃後を待つるものとして、いざといふ時に備へて、ただの心構へは、何時でも持つて居なくてはならない。それは、防衛面のつけ方等は勿論、小銃の扱ひ方、短銃の扱へ方は必ず知つて置かねば、といふ眞實な精神が第五部隊への三日入營となつてあらはれたのでした。然かもそれは、あくまでも訓練を以てして……

(第六回生 河本陸子)

前線將士の心を身につけて



一步奮闘をくわつて心を強く打ちましたのは、奮闘の間々々でよく手入れが着いて黙然として静かなことと云ひます。

この様なところで三日間訓練して頂くのだと思ひます。自ら身のきしまるのを覚えました。三中队に分れ、各中队毎に三日間の計費通りに午前中は訓練作業、午後からは訓練を受けました。訓練作業は私達三中队では皮革品へ油をぬりこむお仕事でございましたが、部隊長の御話にもございまして、私達の様な家庭にあつて比較的暇のあるものが、奮闘の難事を喜んで御手傳ひ致しますと、その間に兵隊さんはその本分である武道に専心出来るのであります。私達が奮闘の草一本拔くことが、即ち我が戦力の増強に關係するのだと考へると、私達の細き手で出来るだけのこと……とみんな真心こめて一生懸命致しました。

この様なところで三日間訓練して頂くのだと思ひます。自ら身のきしまるのを覚えました。三中队に分れ、各中队毎に三日間の計費通りに午前中は訓練作業、午後からは訓練を受けました。訓練作業は私達三中队では皮革品へ油をぬりこむお仕事でございましたが、部隊長の御話にもございまして、私達の様な家庭にあつて比較的暇のあるものが、奮闘の難事を喜んで御手傳ひ致しますと、その間に兵隊さんはその本分である武道に専心出来るのであります。私達が奮闘の草一本拔くことが、即ち我が戦力の増強に關係するのだと考へると、私達の細き手で出来るだけのこと……とみんな真心こめて一生懸命致しました。

今や、物資力を唯一の恃みとする敵軍は、戦争經濟體の感觸を教機として、東に西に總反撃を呼號し、東部の戦場は益々熾烈の度を加へて参ります。これに對しては軍將士は習得に耐へ、數的劣勢を以てしながら、常に四倍に下らない損傷を敵にあたへて居ります。今日、私達の生活目標が戦力の源泉であります。

前線の將士の氣持でやれといふ言葉は、私達が常に聞かされて居ることと云ひます。が、「前線の將士の氣持」が「敵軍の心を身につけて」ある方が一體どの位いづしやるでせうか。私達は深く反省させられます。

三日間の數々の體驗はたつた三日間のものでは決してございませぬ。あの日の感激を何時までも忘れずに常在戦場の精神を私達の日常生活に活かし、前線の將士と相携へて、戦争實踐に邁進して参りたいと思ひます。

(第十四回生 仁科幸子)

（左頁は自動車の手帳）



一億總進軍の歌 (國民皆唱大會)

歡喜と希望を聲高らかに

生活に健全な歌を採り入れ、朝夕の歌唱によって疲勞や屈託を吹き飛ばさう。そして常に清

新進の身心を以て朝顔園遊の生活を建設、天災賑濟の生産職に、職力の増進に努むる意氣

歌を日常生活の中に

臺北市のある局長さんが、尤もこの局長さんは音楽に素養のある人なのですが、國石勇士を送る朝、集った區の人々と共に進行かばの合唱を試みられたのでした。その日折柄の雨に見送りの人は傘をさしてゐたのですが、合唱の途中から、感激の餘り、何れも傘を離して至つたと云ふ話、私はそれに立會つてはゐませんが、その情景は目に見る如く鮮に浮ぶのです。例へば局長さんの理にはまつた挨拶それから調子を得て「〇君の萬歳を三唱致します。どうか御唱和をお願いします」と言ふ形式は、度重なるに従つて感

初の運動でありまして、當日歌は十歌時、日本の力を示し、日本の進むべき道を教へ、われ等の覺悟を促してゐる點に於て、講演の内容と異なるところが無く、然も二時間の間、聴衆の内に欠伸をする人も無ければ居眠りする者も無く、特に歌唱指導の場合、聴衆者と聴衆とが、聲を揃へて調子してゐることと同じ有様であつて、五十歳以上の聴衆迄が、日月水火木金土と、大陸を張り上げる場面を眺め、奉公精神の感動は正にこの感激からだと云ふ感を深く致しました。

凡そ歌と申すものは、音楽方面の娯樂か、子供の歌ふものとされ、一角の男が料理屋の御座敷では大陸を張り上げるに拘らず、愛國的な歌を以て場合には小さくなるを通過としますが、これでは奉公精神は感動しないのでありまして、この無理解が、徒に月並な調子に偏する結果となつてゐるのは遺憾だと言はなければなりません。

生活から引離すことなく、十分間程度もあれば、これを日々繰り返すことに依つて、同じく練成の目的を達し得ることを見逃してはならないと思ふのです。臺北の音楽家達の右の點を理解され、音楽の爲めの音楽を、解、宛も科學者が、航空機の改善に、短波の應用に精進されるのと同じく、國民總力の結集を目的として、無敵からの歌の指導に當られたことに對し、衷心より感謝の意を表さなければなりません。

素は熱意を以て耳を傾け、感激に燃え上つてゐたことは忘れられない出来事、印象でした。歌の進歩を歩かせることと、進歩への近道を歩かせることとを目的として進みます。例へば局長さんの理にはまつた挨拶それから調子を得て「〇君の萬歳を三唱致します。どうか御唱和をお願いします」と言ふ形式は、度重なるに従つて感

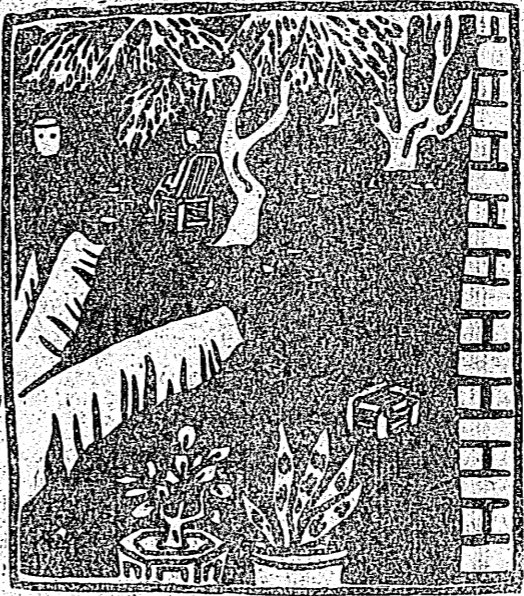
- 黃氏 鳳姿 著 **臺灣の少女** (A) 180
- 本島の少女の戀の風情を描き、先に異邦を遊んだ二巻に附く。(新刊別冊四巻目)
- 章 島 泉 著 **臺灣の** (B) 100
- 台島の特殊風情の描き、百餘種を原稿版オフセット刷し解説を附す(新刊別冊三巻目)
- 台北帝大教授 醫學博士 金關丈夫 著 **胡人の句** (C) 180
- 著者の胡致する人類學民族學の考査に於ける創見に富み、風情深き隨筆、親切近し。
- 台北帝大教授 醫學博士 早坂一郎 著 **隨筆地質學** (D) 170
- 地質學に於ける地質學の地質學上の知識を含む隨筆、興味つき。
- 台中師範教授 志佐誠 著 **蔬菜及び果樹の栽培** (E) 100
- 台湾の自給自足に就いての親切な解説。食糧自給の道を歩むるに必備のもの。
- 劉維賢 種村保三郎 著 **中華民族南洋開拓史** (F) 380
- 共産黨の露骨な工作には、劉維賢が主なる役割を演ずる。本書はそれらに對しての解説。

月刊雜誌 **民俗臺灣** (G) 150
台北圖書局發行 東都書籍臺北支店

七

翌日、埋葬許可証をもらひ、葬儀をよんで亡き骸を棺にをさめ、堀の内火葬場に運んで茶屋に附し、寺にいつて心ばかりの供養をし終へたのは、日ももう暮れかかるころだつた。大崎千里教授はじめ故人の同級生、それに昨日の本島人學生も大體顔をそろへてくれ、どうやら葬式の恰好がついたのは幸ひだつた。

がさて、英茂のゐるさくらアパートは、すぐにも部屋を空けてくれと云ふ。秋火は彼の父親が上京するまで待つて貰ひたかつた。父親に英茂の部屋の様子をみせたかつたのだ。どんな部屋で寝起きし、どんなふうに通つて居るのか、在りし日を偲ぶいささかのす



が、アパートのほうではそんな氣持を察してくれる様子がない。決して永いことではなく、父親が上京するまでのわづか十日かそこらの猶豫を頼んでゐるのだが、アパートでは隣

室の人など氣味わらがつて、さつそく引越すと云ひ出す有様で困ると云ふのである。秋火もこれは止を得ない諦めた。こつちで強引に居する氣なら出来るけれども、事に角まで立ててやるのは自分の意志に添はなかつた。それで、さつそくその翌日引越ふことに決めた。英茂の本や家具や所持品を全部自分のいまるるところ、つまり親兄の自宅へ運ぶことにした。それ以外どこに持つていきやうもないのである。

ところがそのはうも差支へがあつた。姉雪柳は自分ばかりではないけれども、夫がよろこばないと云ふ。死人の持ち物を家に持ちこまれるのは不吉だと感じて思ひ嫌つてゐるのである。義兄吳克

がにもならうかと思つたのである。後にも先きにも一人しかない大事な息子を失つて悲嘆のどん底に沈んでゐる老父の心に、それは多少とも慰めになりはしないだらうか。ところが

明は高等工業出で一般人より頭が科学的に出来てゐるはずなのに、いさかういふことになると驚くのだからをかしい。秋火は腹を立てるよりもあまり馬鹿々々しく苦笑しながらあつさりそのはうも断念して、べつどこか貸間を探し、そこへ英茂の持ち物を移し、同時に自分もそこへ引越してしまはうと思つた。けれども、貸家や貸間のたやすく見つからないところである。秋火は一日中足を棒にしてかけつり廻らなければならなかつた。幸ひ、やつと吉祥寺から十分ぐらゐるところのアパートに部屋が一つ空いてゐた。建物も新しくて小綺麗だし、あたりの環境も比較的閑静でよかつた。すぐ秋火はそのはうへ死んだ友達を持ち物を移し、自分もそこへ引越して来た。林英茂が死んでから、それは三日目だつた。この間、一切の始末を自分でやらなければならなかつた。思へば、靜かに哀しみに浸るともまない。目まぐるしい三日間ではあつた。やつと新しい住居に落着いて肩の荷を降ろしてホツとした時、彼れが一時にて、さすがに夫も體も姿

えた草のやぶにぐんなりとした。その日から秋火は英茂の父林作人の上京がしきりに待たれたが、臺灣から着くまでは、十日あまりもあつた。平時なら飛行機に乗れば一日で東京に着くのだが、このころは船でさへひどくこんで、たやすく部屋がとれないのである。ちよと春の休みで學校にも出ないので、これといつて氣の紛れることもなく、落着かなかつた。外へ出てみて面白くないので、とかく春秋社といふこんどのアパートの部屋に閉ぢこもつてゐた。外はもう紛れもない春だつた。

このあひだの夜降つた冬の名残りの雪も、温い地熱に他愛なく解けて消えてしまひ、樹々は新しい緑の衣裳をつけ、間もなく花々の化粧をして春の宴宴に臨まうといふそととしてゐた。それは正しく美しく根強い自然の生命の力だつた。吸取紙にインクをこぼしたやうに、支那大陸に戦争が擴がつて早くも五年目になり、歐洲の天地にも硝煙が立ちこめ砲聲が轟いて歇まないが、そのために天日が曇らされもしないし、大地は一寸の土地も買されたわけではない。

だ。去年の草木は知らぬ顔にまた花をつける。だが、江秋火は自然のその永遠の生命から隔離された俘囚のやうに空虚で憂鬱だつた。親しい友人を失つたためばかりでなく、そのことによつて、なんとなし漠然とこの人生の憂ひといふものを心に惹き起されたのであつた。かういふしめつばいめをそそした氣分はあつたらしいことでも、自分ながら嫌だつたが、どういふものかそれから逃れることが出来なかつた。

一日本を整理してゐると、ふと母の寫眞をみつけた。高等學校時代使つた西葉集の教科書のなかに挿んであつたのだつた。そんなこともいつからか忘れてゐるほど、秋火には春氣なところがあるのだが、しかし、いまの彼は母の舊い寫眞をみながらいつまでも深い物思ひに沈むほど感傷に陥つてゐた。

家の廣い庭園には一本の巨きな鳳凰木があつた。私はその木に深い愛着を感じてゐた。あの紅い花が可憐で美しいからだけではなく、その樹陰に私の母の姿があつたから……いつもそこに椅子を出して腰をかけて摺物などをしながら、近づいて来る幼い私をみてニツユリ笑ふ母がゐるからであつた。

大きな庭園を駆け廻つて遊んだあけくには、私はきまつてその鳳凰木のところにやつて来る。そして、そこに母がみえないとガツガツするが、れば走り寄つて膝の上に乗つたり

わが愛の木 (江秋火の手記)

時には胸にピツタリ顔を押しつけて乳の匂ひでも嗅ぐやうな甘えた恰好をするのだつた。

「ねえ、お母ちゃん、あつちには榕樹や龍眼の木があるよ。どうしてお母ちゃんこにはつかりあるの？花がきれいだから？ ほくも好きだよ、紅い紅い花。」

抱かれて、上眼つかひにもよつと微笑みながら私は母をみ上げる。すると、母は私を抱いた腕に力をいれる。時には痛いくらいつばいなことがあり、何事かとびつくりすることがあつた。

「さうよ、お母ちゃんも好き、大好き、……でもいまはあんなにきれいに咲いてゐるけれど、すぐバラバラに落ちてしまふものね。」

抱擁の熱いほどの力にもかかはらず、母の言葉はなぜか力弱く怪しげだつた。

どうして、さうなのか、徐々にそれがはつきりと感じられ、次第に厳しく意識され出したのは、小學校に入るころからだつた。或る時私は母と一緒に庭へ出た。鳳凰木の花も終りにちかく、木の下の

に紅い花びらの散り敷いてあるころだつた。その日はどうしたことが、話しかけても母は生返事をして張合ひがなく、私はちよつとむつりしなから、闇の浮彫りのある翡翠色の陶器の腰かけにちよつと坐つた。そして、折からハラハラと落ちかかつて来た風木の花びらのほうをみることもなしにみると、ふと母の涙ぐんでる顔にぶつつかつた。

そのことがあつてからだ。母がひそかに顔を曇らせ涙で目をうるませてるのを、度々私があるやうになつたのは。

母は不幸だつたのだ。しかし、私はそれを漠然とした肉體的感覺として感じて、なぜさうでなければならぬかといふ前後の事情はまだ判明出来なかつた。

「お母ちゃん、なぜ泣くの？」
「ううん、いいの、なんでもないの。」
「だつて泣いてるぢやないか。」
「ほくね、なんだかへんの、ほくお母ちゃんの子だらう。お母ちゃんはお母ちゃんとお母ちゃんだから、それなのに、ほくにはお母さん

が三人もゐるんだもの、それから、兄さんや姉さんや弟があるだらう。お母ちゃんから生れたのともかふ……どうしてなの？」
「まだ判明してないのは、母と呼んではいけないひとが、同じ屋根の下に三人もゐる、お母さんと呼んでも可愛がつてくれるどころか、憎らしい目で睨みつける女が他に二人も住んでるといふことは、たうてい理解出来なかつた。宏太が庭園の塙の向ふには貧乏屋がかたまつてゐる。それは自分の邸宅に比べたら豚小屋同然だし、その子供達は乞食のやうにきたないにもかかはらず、彼らはみな母を一人しか持つてゐないのだ。それが私には不思議でもあり、羨ましくもあつた。どうして自分ばかりは三人も母を持つてゐるのか。よくそのことを訊きたがつて私は母を悩ました。母は、子供はさういふことを訊くものではない。大きくなるまでひとりに分るからと濁してさびしく笑ふのが常だつた。

私の母は江氏阿雪と云ひ、三人の母のうち二番目だつた。しかし、二番目とは一體何であらう。學校で

空だ翼だ世紀の聲だ

九月二十日・航空日

習つてゐる讀本にも、何番目の母なうては書いてなかつた。また、私には兄や弟や妹があつたが、人の語では同じ腹でないと云ふ、その意味も私はよく分らなかつた。私の稚い頭で知りうることは、唯一つ間違ひのない確信は、自分と一人の姉は自分達の母のものであり、その母はまた自分のものである、といふことだけだつた。

父江全成は店のごで忙しく一日中自宅に居ず、家事一切は第一番目の母なるひと常戦の権力の下に行はれてゐた。常戦はさる資産家の生れで、なにかと云ふとお家柄をひけらかし、自分のはらからして有閑夫人をきめこみながら、あたりの者には厳格で氣むつかしく、姉妹稱はれる下女どもがらよつと油を賣つてゐたり、粗相したりすると、時として櫻の杖を振り上げてなぐることもあつた。私の母に對しても苛酷で

刺すやうな皮肉を浴せたり、頭ごなしにどなりつけたりするのだつた。子供ながら私はくやしうして仕方がなく、なんとかして仕返しをしてやりたいものと、小さな復讐の焰を燃やしたことも、一度や二度ではなかつた。

そこへもつて来て、三番目の母梅枝といふのが、表面はいたつて人當りはいいが、内心はなかなか悪辣な策士で、本妻常戦に味方していつも私の母をいぢめてゐた。この三夫人のうち二番目、つまり私の母を父はもつとも愛してゐるやうであつたが、なるだけそれを表面に出すことを控へてゐた。世の中は二夫一婦でさへ完全に固くやつていくのは、至難の業にちがひない。まして同じ屋根の下に、三人それも感傷の細かい女を持つてゐるとは、男たるものよほど氣を使はなくてはやつていけないだらう。この間の微妙な關係をうま

くとりなしなるべく圓満に(實は圓満らしく)をさめていくのは、家長の間は生きものであり、人形を快い配置に列べておくといふやうなわけには多くない。第一夫人常戦は私の母阿雪が良人から愛されてゐるが不満で妬ましく、そのため、優しくてよく働き何も云ふことはないはずなのに、とにかく母に對して辛く當るであつた。第二夫人に取り入つて氣に入られてゐる第三夫人梅枝は、だから、それをちやんと心得て、私の母のほうにどんなに筋道が立つてゐる場合でも、言葉巧みに誹謗して第二夫人の肩を持つのであつた。また、母が進みもしない牌仔の仲間は無理にいれ、づるをやつて第一夫人に勝たせ、私の母から金を巻き上げて面白がつてみたり、時には、母が自慢でこさへたスリーブを隙をうかがつて水で濡れておき、食事の時に思はぬ赤恥をかかすなどといふいふひどい悪さまでするのだつた。

そんな場合、母は正面切つて諍ふことも出来ず、或は辯口巧みに切抜ける要領よさも持ち合せず、ただか

けに隠れてこつそり泣くばかりの優しくて諦めの強い、忍徳的な心の女であつた。

私はその氣弱さのゆゑに母があらはれであり、いほしく思つたこともに、それがまた唯一の物足りなさでもあつた。それはいかにも女らしい美しさではあつても、胸はホロボロと落ちかかる露のやうな、すべて弱いの、脆いの、憐れいものに附きもの、美しさにすぎず、時としてそれはかへつて醜いものとして私の心に映つた。これではいけない、もつと強くならなければ……強くなるにはどうすればいいか。

私の心にいつしか抗争の小さな火がとほつたのは、そのためであつた。

りな丸彈の後銃は蓄貯

近代戦は總力戦である。武力戦であるのみならず、經濟戦である。一億一心、勸業貯蓄一、以て戦費の財源たる公債の消化に充てねばならない。「勸業貯蓄」の四字を我々銃後一億が實行するか否かが經濟戦成否の分岐點である。

貯蓄は銀行預金あり、郵便貯金あり、公債の購入固より結構である。然し長期に亘る強制的貯蓄の意味に於て、生命保険の加入こそは時局下の貯蓄として、極めて適當と云ふべきである。

戦費が増大すれば貯蓄の目標も亦増大する。本年度の貯蓄目標は二百七十億圓と決定された。銃後國民は前線の兵隊さんに彈丸の心配をさせる様な事があつては斷じてならない。一億一心、前線將士の心を以て經濟戦に邁進すべき秋である。

(申込案内書)

第一生命保險相互會社
東京・日比谷

我等の歌集

第一 諸君の歌集に、
第二 諸君の歌集に、
第三 諸君の歌集に、
第四 諸君の歌集に、
第五 諸君の歌集に、
第六 諸君の歌集に、
第七 諸君の歌集に、
第八 諸君の歌集に、
第九 諸君の歌集に、
第十 諸君の歌集に、

編輯 諸君の歌集に、
発行 諸君の歌集に、
印刷 諸君の歌集に、

新建設回覧板

常会申合事項 九月

一、優秀なる航空機乗員を多数送り出させよう。

大東亞戦争を勝ち抜く爲には多数優秀な航空機と乗員とがなければなりません。だから私たちは航空機工業への要員の養成に心掛けると共に、立派な航空機乗員を多数送り出さねばなりません。陸海軍少年飛行兵や航空局乗員養成所などに奮つて子弟を送り出すやうに致しませう。

又國民學校等で行つてゐる模型飛行機の訓練も活用し單なる玩具的な考へ方は止めねばなりません。又國民總ても航空機に對する科學知識を蓄へて優秀な飛行機と乗員とを多数作り出したいものです。だから私たちは、こゝでも無駄な消費をやめて大いに工夫努力し、國家のお役に立つ心がけねばなりません。

親切笑顔

給配朗明

去る二十日午前九時、茨北市の中央會場を初め全島數十箇所の會場で一齊に全島商業者奉公大會を開き、商業人の決戦下に於ける一大決意を表明したが、その機会を捉へて現に世人から切に要請されてゐる商業者の「親切笑顔」を廣く、多大の成果を収めた。

第一日 親切笑顔の日
お客の應接は勿論優しく親切であらねばなりません。更に「お客の爲めに自分の扱ひ商品の性質、特徴、缺點などをよく調べて、どうすればよく使用に堪へるか、故障が出た

奉公

手帖

七月十日の暴風雨で増水し、十八日午前火災山堤防が約六百米ほど決壊し、そのため激流は下の

方、諸部落を押し流し、百数十名の犠牲者を出したのみか、家を流され田畑を荒され、非常に氣の毒な災害を蒙つた。▲かういふ時に、互に助け合ひ、力の限り協力し、奉公運動の眼目でもあり、こんな時に奉公班がど

奉公

手帖

ういふ活動をしたかは皇民奉公會として最も注意してゐるところで、この大甲街附近の水害についても、皇奉本部からは九木主事が現地へ行つて詳細にその邊の事情を調べて本部へ報告してゐる。▲これによつて頂後厩國民學校の西村訓導や

一、これまでの申合事項の實踐は如何でしたか。

- お互に明日への反省を致しませう。
- 至なる申合事項
1. 今こそ決戦だ誓つて鬼畜米英を撃滅すべく一大勇猛心を振り起し、逞しい六百五十萬の總進軍を續けませう。
 2. この四月からいよいよ總てが決戦生活に切替へられます。私共の生活もこの線に沿ふて立て直しませう。このため婦人の全面的協力が望まれて居ります。
 3. 決戦増産を實踐で示しませう。
 4. 汗と涙で勝ち抜きませう。
 5. 補助貨を進んで交換し、又國民貯蓄の目標額達成に努力いたしませう。
 6. 戦争に勝つため健民健兵になりませう。
 7. 敵アメリカの反攻は熾烈です。私共は眞剣になつて防空陣を固めて置きませう。服装も空襲があつた場合働き易いやうに又被害を最少限度に止めるやうに充分整備して置きませう。尙戦中下には流石に飛び降りるやうな勇気から之を眞に受けたら又氣附かずに飛ばしたりすることのないやう警戒致しませう。
 8. 指導者は自ら陣頭指揮に當りませう。

同所派出所の談合成運査などを初め宛理部落の青年などは實によく働いて貴い人命救助をしてゐるが其の他にも尙美談があることと思はれる。▲その他は本年五月二十二日結成したばかりの大甲街の植樹俱樂部の未婚女子五十二名が、畑田静枝さんの指揮の下で實によく活動し、男女青年團員の協力で炊出し作業に奉仕し初めは一千人以上の食事を三度々炊出し、實際よく働いた。日婦からも出て、女部隊の指導に當り、よく力を協せて非常事態に對處した。▲また竹山郡からは罹災民に菊、甘藷、蔬菜などをトラックに積んで皇奉の郡支會長たる郡守自ら之に乗つて救助に行き、北斗郡からも同様に切干藪や蔬菜などを満載、病身の郡支會長自ら出馬したといふ美談もあり、大甲郡でも、罹災

らどうすればよいかとそんな處まで詳しく教へ、物の價値を完全に十二分に無駄なく使ふ様に消費者を指導することまで心を盡すことがハンドの親切です。

第二日 不平を言はぬ日
戦時ですもの、多少の不自出ソレは勿論あります。前線の兵隊さんはどうですか、不平など一切言はない事にしませう。

第三日 創意工夫の日
必要なものを必要だけ、必要な時に必要な場所へ配給する、これが私達の使命です。どうかすればそれがうまく行くかどうか、それはお客の満足が得られるか、大いに工夫を凝らして見ませう。

第四日 行列買を廢める日
長い時間の立列買、二重、三重の長蛇の列。そんなに喧しんで買はねばならぬ筈はないと思ひます。決戦下にぶさばしにくい行列買など一切廢めませう。

者へ衣類四千枚を贈つて助けた外、州下の青年團が非常によく救援や復興に協力した。▲人の美しい情は、かういふ時に初めてよく現はれるものだ。奉公運動がうまく行つてゐるか否かも、斯ういふ時に奉公班がどの程度よく動き、隣保互助の精神を發揮するかで決るのである。嘉義の大地震や蘭陽の昨年の大暴風被害等の際に、奉公班は全くよく助け合つて班だけで何とかし、二時を渡ぐといふ方法をとつた。▲こんどの水害では被害地の部落は皆流されて了つたので、奉公班毎に助け合ふといふことは事實上困難であり、勢ひ隣接の部落や郡のお世話にならねばならなかつたと思ふが、果して然らぬといふ具合に隣り同志助け合ふといふ美しい相互扶助の美風を遺憾なく示すことを得た。▲皇奉本部で

は先頃から全島の市郡支會長を幾つに分けて本部で懇談會を開いてゐるが、その席上で話された地方事情のうち、或る郡支會長は斯ういふ話をした。▲「奉公班の常會もだん／＼行きわたつてよく開かれ、又そこに集る人だちの話を聞いても初めの間は配給に對していろいろ吾々に聞えよがしに文句や不平を云つたものですが、この頃は、本當に困つたことがあると心から相談して來るといふ風に眞面目になつて來ました。これで奉公運動が漸く奉公班の下部にまで浸透つて來たといふ氣がします。」▲高雄市を中心とするコレラの流行は、最近の痛ごとであつた。こんな悪疫の流行する餘地を作つたのは何と云つても無量で、奉公班として連帯責任と云はねばなるまい、早く退治しよう。

第五日 陣車を擧げる日
これからは各々人手は少なくなり、仕事は面倒になります。これをキビ／＼と片付けて行くためには、一人で二人分も三人分も働かねばなりません。時代は私共が要求して居ります。元氣一ぱい大いに頑張りませう。

第六日 商店街を綺麗にする日
お店の掃除は勿論ですが、街は綺麗になつて居ませうか。一店は埃だらけでも品物は少いで買つて居てもお客は喜んでは買つたことしたら、お客の心を暗くするものです。キレイな街、キレイな店、明るい氣持で店頭に立ちませう。

第七日 感謝祭の日
不足ながら毎日の用を間に合せて呉れる買戻さん、足らないながら満足して呉れるお客さん、勝ちぬく爲めの辛抱です。我々を助けてお互に感謝の氣持で御奉公を願ひませう。

た器武が體 たまた矢が汗

（第二卷第九號） 毎月一回二日發行 ①一五十五

島本の
酷暑に
打ち勝つ



暑さには、けげんげの暑さ力の中
「サウナ」へ、お入り下さい
し、暑さ退治の効果を
き、面力を確保します。

脚氣の治療と預防

オリサニ

三井株式会社 東京・日本橋・区町
三井三井株式会社 東京・日本橋・区町



化膿症

淋性 慢性 急性 丹毒 膿腫 疔瘡 癰疽 耳中 腐敗 膿下 桃核 創腫 膿腫 疾 毒 疽 疔 瘡 癰 疽 炎 炎 炎

ルーポラテ

社合式株業製一第